

六稜舎報

journal of the RIKURYO alumni association of KITANO HIGH SCHOOL



創立100周年を記念して大阪市に寄贈された大阪城梅林は、市民の憩いの場になっています

I N D E X

46
2006.2.20

- 02 校長先生に感謝を込めて
- 03 名誉会長あいさつ
- 04 132年同窓会総会報告
- 06 総会講演要旨
- 07 六稜ギャラリー
- 08 六稜会館だより
「トークリレー」・「六稜文庫」

- 12 東京六稜倶楽部報告
- 14 母校に還った六稜生
- 16 同期会紹介
- 18 六稜同窓会会則
- 20 トピックス
- 23 PARTY REPORTS
- 27 母校の窓

校長先生に感謝を込めて

六稜同窓会一同

六稜同窓会名誉会長の中垣芳隆校長先生には、3月末をもって御定年のため御退職なさる由お伺いしました。

思い返せば前校長秋田典昭先生の5年間（平成9～14年）と、現校長中垣芳隆先生の4年間（平成14年～18年）は母校には昭和校舎の建て替え、同窓会には新六稜会館建設という大事業の連続でございました。

中垣先生には秋田先生のあとを受けて、内外の諸環境の厳しい中を多大の御尽力をいただき北野の名にふさわしい教育環境を実現していただきました。

この大事業の成功は、もちろん校長先生おひとりの力で出来るものではなく、教職員、PTA、生徒、そして我々六稜同窓会員すべての力の結集成果ではありますが、中垣先生の優れた舵取りに依るところが大であります。

皆様ご存じのとおり、北野高校の充実ぶりは、しばしばマスコミで報じられる大学進学の実績や“〇〇力ランキング”といった評価にもその一端がうかがえます。こうしたことも卒業生としては嬉しいことではございますが、日々の教育現場では中垣先生の類いまれなリーダーシップのもと、エルハイスクール（人材育成開発重点校）やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）としてのとりくみの充実、京大・阪大を中心とする高大連携の深化、学校週五日制の実施に伴う土曜日の有効活用としての土曜講座や総合学習など、めざましい教育実践が堅実に展開されています。

六稜同窓会としても、母校の在校生諸君がすぐれた先生方のもとに、充実した教育環境の中将来の社会のリーダーとなるべき人材として健やかに育ってくれていることは、誠に嬉しい限りでございますが、さらに加えて後輩達の成長に私たち卒業生がいささかなりともお手伝い出来ることを皆様と共に喜びたいと存じます。

そのひとつの例が、2005年11月26日（土）に母校教室と六稜会館を使って開かれた総合学習の

とりくみです。1年生を対象に「職業ガイダンス～先輩に聞く」、2年生を対象とした「学部・学科ガイダンス（大学セミナー）」が開かれました。

これには52期の大先輩から115期（2003年卒）の若手卒業生まで実に32名の六稜同窓生が講師として来校され、それぞれのお仕事について熱く語りかけ、現役生徒たちに多大の感銘を与えて下さいました。

この催しは130年の長い歴史に支えられ、北野を愛する心を縦糸として先輩と後輩とが一筋につながっている北野なればこそ実現できる教育プログラムであり、必ずや現役生徒諸君の将来に役立つもの、ひいては日本の将来の発展に寄与するものと確信しています。講師の方々にはご多忙の中を母校のために御尽力をいただいたことに厚く御礼申し上げますと共に、今後も続くさまざまな企画にも六稜同窓生の皆様方の御理解と御協力を戴きますようお願い申し上げます。

この3月には、118期316名の卒業生が新たに六稜同窓会員として加わります。若い力を大いに期待していますが、彼らを育ててくださった中垣校長先生が期を同じくして御退職になります。中垣校長先生の今後のますますの御活躍と御健勝をお祈り申し上げて六稜同窓会からの御挨拶といたします。



「進路相談ガイダンス～先輩に聞く」に参加していただいた卒業生一同。

ごあいさつ

名誉会長 中 垣 芳 隆

年もあらたまり、同窓会会員の皆様方にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素から母校北野高校に対する有形、無形のあたたかいご支援とご協力に心から厚く御礼申し上げます。

さて、伝統ある北野高等学校長の辞令をいささかの緊張を伴いながらお受けして以来、4年の歳月の経つのは早いもので、任期も余すところあと数十日となってまいりました。

教育委員会在職時に北野高校の新校舎を何教室規模にするかということで担当課と激論を交わしたことも思い起こせば懐かしい事柄の一つですが、この4年間、北野高校はこれまで同様その堅実かつ着実な足取りを示し、教職に就くことの喜びとともに、組織は人なりという大原則を改めて認識させてくれた素晴らしい学校です。

最頂の阪神タイガースに例えますと、10人目のプレーヤーと言われる熱心な観客・応援団と一体となって、ペナントを奪回したわけですが、北野高校も同窓会、PTA、近隣の住民の方々からの惜しみのない、熱意溢れる応援をいただいている幸せな学校です。

とりわけ六稜同窓会には教育充実のための浄財にとどまらず、キャリアガイダンスをはじめとする新たな取組みに、ご多忙のなかを後輩のためならと、多くの卒業生の皆様のご協力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。

「北野の校長をしていて最大のストレスはストレスがないこと」と校外で申しますと、大嘘つきを見るような眼差しが返ってまいりますが、事実は小説よりも・・ではありませんが、これ以上の確かな言葉は思い浮かびません。

校内の状況をいま少しつぶさに申しますと、北野の教職員の士気は我が国の数ある高等学校の中でも秀逸なもの誇るところです。全員が将来の六稜人の教育のためにハイレベルの熱意と気概をもって職務にあたってくれています。

完全5日制、そのしわ寄せが高等学校に収斂

するなか、北野のブランドを守り、発展させるために、仕事量の増大をよしとしてくれた全教職員の努力と心意気を個別、具体的に紹介すべきところですが、紙面の都合上残念ながら2人に止めざるをえません。

学校を語るとき、教育職にライトがあたりがちですが、学校組織は事務職員と教員の連携がなければ、たちまちにして迷走状態に陥る脆い一面をあわせもっています。

北野高校は国からスーパーサイエンスハイスクールというかつてない大がかりな研究指定を初年度に受け、モデルが無いというよりモデルを示すことを要請される中、理科の教員を中心によく成果を収めました。もし事務室に岸主査なかりせばと考えると背筋が寒くなるのは小生のみならず教員すべて同じ気持ちであろうと思います。本事業にとどまらず北野高校への彼の貢献に心からの賛辞を贈るものです。

いま一人は六稜81期の鎌田教頭です。定時制の兼務辞令を受けている訳でもなく、家庭のことを心配させるほどに、昼夜をわかつたず、休日返上は年中行事とばかりに、職務に精励してくれていますが、挙措の端々から北野への母校愛が彼を支え、疲れを癒していることが伺えます。彼にも大きな拍手を贈ります。

公務員生活の最後を北野高校で締めくくることができる私以上の幸せ者は、そうはいないだろうとの思いは、カレンダーが残り少なくなればなるほど逆につるることと思います。

名門北野高等学校の更なる前進と、六稜同窓会のご発展さらに会員皆様方のご健勝、ご活躍を心より祈念するとともに、重ねてのお礼を申しあげごあいさつといたします。



六稜同窓会132周年総会のご報告

斎藤英文(86期)

六稜同窓会132周年総会が10月30日(日)、北野高校内多目的ホールおよび六稜会館にて盛大に執り行われた。当日は抜けるような秋晴れに恵まれ、230名という多数の方々にご出席をいただいた。出席された方の中には、志甫副会長をはじめとして、東京その他から遠路はるばる駆けつけて頂いた方々も多数おられた。

本年度132周年総会は、86期(昭和49年卒)が当番期として全体運営を行った。今年の運営は従来からの運営を踏襲しつつも、様々なことを試みることにした。その中でも特筆すべきことは、従来5,000円だった懇親会費を3,000円に値下げしたことと、懇親会においては「世代を越えた交流を」をテーマに進められた点だ。より多くの卒業生の皆様が、相互に親睦を深めていただくことこそが総会のメインと位置付け、開催時刻や全体の時間配分・会場レイアウトなども見直しが行われた。



【第一部 総会】

第一部の総会は北野高校多目的ホールにて行われた。

定刻の午後1時に木村総務委員長(73期)の開会宣言に引き続き、山本会長(62期)からご挨拶があった。ご挨拶の中では、山本会長は「六稜同窓会には会則がある。そしてその精神は卒業生の親睦にあり、母校および社会への貢献を目指すもの。」と強く訴えるご発言があった。



次は名誉会長の中垣北野高校校長からのご挨拶であった。今年が校長としての最終年度となる中垣校長が、これまで取り組まれてきた「信頼」を重視した教育運営と、目覚ましい大学合格者数の躍進を含め、現れてきた様々な成果をお話しされていた。30年以上続けられてきた大阪府立高校の9学区制は、2007年度から4学区に統合されるため、その対応準備も着々と進められているそうである。

お二人のご挨拶の後、藤田財務委員長(62期)から、六稜同窓会の平成16年度決算報告と平成17年度予算内容説明が行われた。その中では、平成16年度は、会報発行の遅れから広報費の支出減少があった反面、会費収入の落ち込みがあったこと。平成17年度はこれを解消し、正常な運営に戻すことを目指した予算で計上されている点などについてコメントがあった。その後の質疑応答では、同窓会運営の不備等についてのご指摘の発言があったものの、圧倒的多数の賛成で会計報告は「承認」された。

総会決議に引き続き、独立法人理化学研究所、発生・再生科学総合研究センター、非対称細胞分裂研究グループ

ディレクターの松崎文雄氏(86期)から「幹細胞ーあなたの体をつくる素(もと)」と題して卓話が行われた(卓話の内容は別掲)。松崎氏の卓話については、皆さん非常に興味深く聴かれ、卓話後はいくつかの質問も飛び出した。

卓話を終え、午後3時前に第一部が終了した。



【第二部 懇親会】

第二部は場所を六稜会館3Fホールに移しての懇親会である。当日最高齢・森島重勝氏（45期）の乾杯ご発声により、懇親会がスタートした。堀江佳宏氏・奥村（東郷）礼子さんの86期コンビの司会進行で、途中、かつての先生への一言インタビューなども交え、楽しく進められた。



六稜会館は竣工後すでに約2年が経過し、昨年度からは総会後の懇親会も六稜会館で行われるようになった。しかし、今回のように非常に多くの方々にご参集頂いた場合、3Fホールは手狭となり、スペース確保が大きな課題だった。そこで、ごく一部のご高齢の方やお身体の不自由な方を除き、今年度は原則立食の懇親会を踏み切ることにしたが、大きな混乱もなく、皆様方にはご歓談を楽しんでいただくことができた。また、立食としたことで、年代にとらわれないテーブル配置が可能になり、開始時から年代を分散したテーブルの割り振りも行われた。その結果、開始直後から同期以外の方々とお話しされる姿が各所で見受けられた。さらに、卓話者の松崎氏を交え、皆さんで写真撮影するなど、和気藹々とした交流が実現していた。



今回は、懇親会進行面でも従来とは違った試みを行った。「世代を越えての交流」には、お互い自己紹介も必要で、歓談に至るまで時間を要するという考えから、ご歓談いただく時間を極力多く作るという方針で時間配分に腐心した。このため、抽選会の方法も見直し、短時間に圧縮した。

抽選会では山口栄三氏（86期）が階段席の上になり、1等～3等をあいこジャンケンという方法で選んだ。立食形式の採用と階段席上段の位置が功を奏し、またこれに山口氏の話術が加わって、老若男女を問わず皆様ジャンケンに興じることができた。一方、末等は数種類の景品を用意し、景品ごとに名札番号の下一桁のみを選ぶという方法での抽選を行った。景品には86期でデザインした胸に六稜マークの入った濃紺のTシャツや、六稜マークの金刺繍入りハンカチも用意され、懇親会終了後に景品を手にした当選者の方々にはすこぶる好評であった。

抽選を短時間で切り上げた代わりに、アトラクションとして、9月のリレートークにも出演された浜松市立楽器博物館の嶋館長（86期）にリコーダを演奏いただいた。小学校の音楽でも使われるリコーダだが、嶋館長にかかる素晴らしい音色に変身し、「いつも何度でも（千と千尋の神隠し）」ほか2曲の魅力的な演奏を聴くことができた。



東野和夫氏（87期）からの来年度総会開催への決意表明に続き、トリはコーラス部OB・OGの稜声会から花田俊一郎氏・林和之氏・恩地（伊藤）悦子さんら（86期）による旧制北野中学で一時使われたと云われている校歌披露の後、全員で「六稜の星」を合唱した。志甫副会長（66期）の閉会の辞をもって午後4時半過ぎにお開きとなった。

六稜同窓会132周年総会

= 松崎氏卓話内容 =

斎 藤 英 文 (86期)

【松崎氏のプロフィール】

1974年北野高校卒(86期)。北野から東京大学理学部へ。米国ロックフェラー大学、国立精神・神経センターにおいて遺伝子を中心に研究。その後、東北大学加齢研究所教授を経て、現在 独立行政法人 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター（理研CDB・神戸市）非対称細胞分裂研究グループディレクター。理学博士。

国立精神・神経センター時代に非対称の細胞分裂メカニズムの重要な部分を発見。発生分野においては現在世界的な研究者の一人となっている。

高校時代は陸上部でハイジャンプの選手。



【卓話の内容】

人間でも動植物でも、受精卵の1個の細胞が細胞分裂して生命が出来上がることは、皆さんもよくご存知のことでしょう。また、細胞分裂では遺伝子が完全に複製され、どの細胞にも伝えられるメカニズムも有名です。しかし、全く同じ遺伝子を持ちながら、ある細胞は神経に、また別のある細胞は皮膚になって行くのはなぜでしょうか。

このようにある組織が形成されたり、あるいはそれを維持するためには、「幹細胞」という細胞の存在が知られています。この幹細胞は、細胞分裂をした際に、分裂した片方は組織細胞にはならず元の姿を維持するという不思議な分裂を繰り返す細胞です。神経幹細胞、血液幹細胞、生殖幹細胞などと呼ばれているものがあります。

なんだか偉そうな名前をもつ細胞ですが、なぜこのような細胞分裂が可能なのでしょう。それは細胞分裂の際に、遺伝子の外に存在する物質の影響なのです。細胞分裂に伴って、片側に集まる物質があり、それが分裂すると片側の細胞にのみ伝えられて行くメカニズム。これが「幹細胞」の細胞分裂なのです。

人間における「幹細胞」の働きは、もちろん胎児の間は活発なのですが、大人になってからも、ゆっくりとではありますが、「幹細胞」は働いています。大人の脳内神経細胞にも「幹細胞」があり、脳の再生に役立っているということは、最近の研究で明らかになって来ました。脳の「幹細胞」を活発化するには、勉強という刺激がよく効くということも証明されています。幹細胞のメカニズムがもっと明確になり、そしてそのコントロールが可能になると、医療への応用も期待できます。たとえば、肝臓が病気でだめになったとしても、肝臓の幹細胞さえ作り出せば、肝臓を再生させるというような夢の治療も可能になる時代が来るかもしれませんね。



【卓話の感想】

学生当時からかっこ良かった松崎氏。今も変わらないハンサムで、しかも優しい口調の卓話であった。要所要所では動画を含む画像による細胞分裂の様子を示し、最新の研究内容も非常に分かり易い卓話にまとめていただいた。この日だけで松崎ファンが多数できたのではないだろうか。松崎氏、ありがとうございます。

六稜ギャラリー展示資料解説 その1

北野高校教諭 高橋昌弘

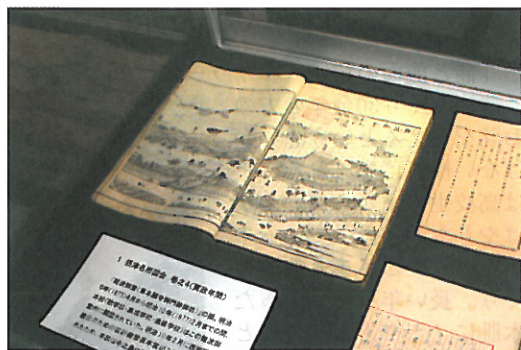
『六稜会報』第44号で六稜ギャラリー（資料館の正式名称）の開設について報告した。その後、新たに4台の展示ケースを設置し、展示内容も少し変えて現在に至っている。入學式・同窓会総会・文化芸術祭などに合わせて度々公開しているの、ギャラリーの存在はかなり知られるようになってきた。しかしまだ、広く利用されているとはいえない状況である。大阪府立高校の中で最も貴重な資料を所蔵している六稜ギャラリーを、多くの方々に見学して頂きたいという願いを込めて、今回から展示資料の紹介を始めた。

①欧学校設立を告げる大阪府令

（明治6年[1873]4月20日）（複写）
「府令第153号」で欧学校の設立が布告された。「このたび、難波東本願寺掛所において欧学校を設立し、来たる23日より開校」「あらかじめ各区小学において俊秀の者を選び入学」させることが記されている。原本は大阪府公文書館にあると聞いているが、筆者は確認していない。

②摂津名所図会 巻之4（寛政年間）

「難波御堂（東本願寺御門跡御坊）」の図。明治6年（1873）4月から明治10年（1877）2月までの間、本校（欧学校・集成学校・進級学校）や大阪教育大学の前身の教員伝習所（明治7年設立。翌年大阪府師範学校と改称）などの学校がこの難波御堂内に開設されていた。ただし、詳細については不明である。明治10年2月に西南戦争鎮圧のための征討総督仮本営がこの寺に設置されたため、本校は師範学校とともに中之島常安町に移転することになった。なお、この御堂は昭和20年3月の大空襲の際に失われ、戦後、現在の御堂が建てられた。



ところで、本校には『摂津名所図会』のほかにも『摂陽群談』（元禄14年）・『大和名所図会』（寛政3年）など江戸時代の和書が多数あり、その大半はギャラリー横の収蔵室に保管されている。収蔵図書は、「古書ボランティア」を中心とする多くの方々の献身的な尽力によって作成された「収蔵古書整理台帳」で確認できる。

③ENGLISH GRAMMAR

（R.C.SMITH 1867年）

本校に残る最古の教科書。アメリカのフィラデルフィアで発行された。「集成校印」が押されているので、集成学校で使用されたものと考えられる。また「ハルトリー大坂十六番」の印も残る。大阪川口居留地16番にあったハートレイ商会のことであろう。

④大阪府中学校則 大阪府第五課

（明治10年[1877]9月）

明治10年8月末に集成学校と進級学校が合併して大阪府第一番中学校が設立された。場所は従来通り中之島常安町だった。活字印刷されたこの資料は、第一番中学校の校則（全7章）を記したものである。例えば、「入学生徒ノ年齢ハ満14年以上ノ者トス」、「授業時間ハ毎日5時、即チ1週30時間トス。4月1日より午前8時上校、11月1日より午前9時上校、但し暑中ハ午前7時より12時マテトス」、「授業ノ報ヲ聞ケハ、速ヤカニ廊下ニ整列シ、教師ノ先導ヲ得テ教場ニ入ルヘシ」、「教場ニテ談話・喫煙又ハ漫リニ席ヲ退キ、机辺ヲ徘徊スル事ヲ禁ス」などとある。

⑤大阪府第一番中学校則 大阪府第五課

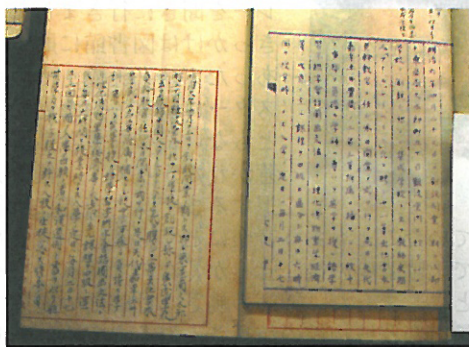
（明治11年[1878]8月改正）

この資料は、④を改正して活字印刷したものである。改正点は、下等中学科の修業年限が3年から2年に短縮されたこと、試験の呼称や回数が変更されたことなど、多岐に及ぶもので、大改正といつてよい。

⑥府立大阪中学校年報

（明治六年四月至同十一年十二月）

明治6年（1873）から明治11年（1878）までの本校の歴史を記したもので、右のものが「大阪府」とある罫紙に記された原本（現在は所在不明）の複写。左のものは「大阪府立北野中学校」とある罫紙にそのまま手書きで筆写されたものである。「明治六年四月二十三日ヲ創設開業ノ期トス」とあるが、「欧学校」の名は見えず、最初の校名を「集成学校」としている。



六 稜 会 館 だ よ り

トークリレー

(<http://rikuryo.or.jp/talkrelay/hall-of-fame.html>)

東の「東京六稜倶楽部」、西の「六稜トークリレー」と並び称されるくらい定着した感があります。これも偏にご参加いただいた会員の皆様の厚い声援の賜物…と、運営委員一同、誇らしく思っております。これからも引き続き…まだの人は是非一度…ご参加くださいますよう、切にお願い申し上げます。

なお、当日の様様に参加者にレポートしていただいたものが、すべて六稜WEBに掲載されていますので、全文につきましては、そちらをご参考ください。(右上URL)

ここではその一部を適宜抜粋のうへご紹介いたします。

会館運営委 谷卓司(98期)記



第23回【9月3日】

嶋和彦さん(86期)

「楽器の街に楽器の博物館～

浜松市楽器博物館の挑戦」



僕は今回初めてトークリレーを開きに行きました。きっかけは図書館に貼ってあったポスターで、そのポスターに載っていた見たこともない奇妙な金管楽器に惹かれたからです。僕は引退するまで吹奏楽部に所属していたこともあり音楽にとっても興味があったので土曜講座の後、せっかくなので聞きに行くことにしました。講師の嶋さんは86期の先輩で浜松市楽器博物館の館長さんだそうです。講演

は映像と音をふんだんに使ったもので目でも耳でも楽しむことができました。

最初に世界で初めて作られたピアノの音を聞きました。僕も含め多くの方がチェンバロと勘違いしてしまうほど現在のそれとはまったく違う音でした。しかしそんな昔のピアノの音が現在のピアノの音に劣っているなんてことはなく、むしろ逆に一つ一つが手作りで作られ、一つ一つに個性がある、あたたかみのある昔のピアノの音に僕は惹かれてしまいました。そんなピアノが現在のピアノに至るまでいろいろな改良を重ねられ、中にはペダルが4本もあり、それでベルを鳴らしたり底の板をパンパン叩く機能がついたものもあり、その映像と演奏を聴いて思わず笑ってしまいました。

その他にも浜松市楽器博物館にある今ではなくなってしまったいろいろな金管楽器についても紹介してくださいました。僕はチューバを吹いているということもあり金管楽器については詳しいつもりだったのですが、次から次に出てくるのは見たことも聞いたこともない奇妙奇天烈な楽器ばかりでその形や音に驚かされてしまいました。(…後略…)

花房厚希(118期)記

第24回【10月1日】

見市泰男さん(81期)

「能と能面の秘密～キーワードは原人称」

能面づくり30余年の方のお話を伺えるという思いがけない機会に恵まれた。実は高校生の頃から、いつかはやりたいと思っているのが木彫りの仏さまと能面づくり。長い年月を背負った木肌にノミや刃をあてると自分の小ささがそのまま現れそうで、どうにも怖い。それでなかなか踏み出せないでいる。



それでも今夏や々と木を削るところまでいった私は、面打の第一線におられる方にお目にかかれるとあって卒業生の母の後ろからいそいそ会場へ向かった。(…中略…)

スライドやビデオをふんだんに盛り込んでの見市さんのおはなしは、とても楽しかった。数多ある面のなかで、翁だけは顎の部分が動くこと。もともとは面【ミイエン】と中国語で呼ばれていたのが面【おもて】という和語に変わったのは、近世になってからであったこと。大学時代に少し能を囁りはしたものの、知らないことばかりだ。(…中略…) さて、そしていよいよ「原人称」のお話。例えば「若女」の面をつけて『大原御幸』の六条宮も『熊野』の遊女も演じられるように、「小面」が全く趣の異なる『船弁慶』にも『杜若』にも使われるように、お能の面は多様な役柄を担うことができる。面【おもて】は、固有名詞を持った特定の「誰か」ではないのだ。(…後略…)

東野雅子記

第25回【11月5日】

田中秀樹さん(88期)

「ウナギをつくる～完全養殖への挑戦」



田中君は、独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所にお勤めで、世紀の大問題であるうなぎの完全養殖研究に取り組んでこられました。

うなぎは、どこで生まれてどこに行くのか？ これは歴史的な大問題で、古くはアリストテレスが「地中から湧いてくる」といい、シーボルトは死ぬ前「重要な問題はすべてとかれた。残っているのはうなぎの来歴だ」という言葉を残しているくらいだそうです。(…中略…) ・卵→・シラス→・クロゴ→……→かばやきのなかで、……の順で研究と実践が進んできた、ということでした。普通にいわれる「うなぎの養殖」は、シラスウナギから大きくするという……をさします。(…中略…) さて本題は、・をどう解決するか、卵からシラスウナギまでの飼育の問題でした。(…中略…)

2003年に、完全養殖成功の公式発表をされたあと、宮内庁から連絡があって「いちどお手すきのときに、説明にきてくれませんか」とのご案内があったそうです。「時間ができたら行きます」と答えたところ、周りの方が驚き、急遽上京。実は、陛下にご説明とのことで、研究を始めた初代の先生と一緒に皇居へ参内され、その時の記念写真を披露いただきました。同期のものはてっきりご進講とばかり思っていました。これを「お茶」と称するそうで、ご下賜のお菓子のスライドとともに「陛下とお茶してきました」

た」としていただきました。(…後略…)

定藤規弘(88期)記

第26回【12月3日】

(第1部)

志甫 溥さん(66期)

「六稜人の思い出～

会ったひと・

会っていない人」

(第2部)

六稜ライブステージ2005

六島昭治さん(57期)



「ハーモニカ独奏」

迎田裕輔さん(115期)「ジャグリング」

六稜吹奏楽部OB/OG有志の皆さん

「吹奏楽アンサンブル」

今回、スタッフとしてトークリレーに初めて参加させていただきました。私の勝手なイメージなのですが、お招きした卒業



生のお話を緊張して聞くものと思っていました。やはり著名な方ばかりですから、お名前をお聞きしただけで私などはカチコチです。さらに、そのようなトークリレーには多くの先輩方がいらっしゃる。そこに若輩者の私が同じように並んで座る(参加する)ということで、想像しただけで更にカチコチです。

しかし実際は、第一線で活躍してこられた方の体験談という、興味深いながらも談笑を交える柔らかい雰囲気での講演でした。森繁さんが2001年に来校した際のVTRも見せていただきました。旧校舎がまだ残っていた頃の映像は、懐かしさを感じずにはいられないものでした。

講演の途中、私の左隣に何人か遅れて入ってきた参加者(多分115期生)がいたのですが、座布団が足りずそのまま座っていたところを、私の右隣の方(多分70期生あたりの方)が、余っているからと座布団を回してくださいました。名刺交換会では大先輩になかなか声をかけられずにいる若い卒業生に優しく話しかけている先輩が、会場のあちらこちらで見られました。

北野高校が誇る伝統と言う継続や意識は在学中だけではなく、卒業後も続いていると感じたトークリレーでした。

並河幸子(113期)記

平成18年度トークリレー予定

3月4日	コロ・スベランツァ 六稜トークリレーの歴史の中でも 一時に北野高校卒業生が9人も出 演する 声楽室内アンサンブルの楽しみ	6月3日	門良一氏(70期) 250年のモーツァルト(仮題)
4月15日※	岩倉哲也氏(北野高校国語科教員) 手塚治虫さんの関係話題を (演題未定)	7月1日	黒田秀也氏(84期)泌尿器科 くろだクリニック院長(演題未定)
5月13日※	松岡信道(111期)NPO法人 JASSE 設立発起人、 「現代若者事情(仮)」	8月5日	未定(但し戦争関係で準備中)
		9月2日	藤本可芳子氏(92期) 「眼の健康管理と治療法の最前線」

いずれも第1土曜日(但し※印を除く。)

午後1時半受付開始、2時～4時

場所 六稜会館3Fホール

六稜文庫

【六稜文庫】では、皆様からの寄贈本の受入れ整理を会館運営委員のボランティア作業で行っています。1Fロビーの一角「六稜文庫コーナー」で、これらの本の閲覧を自由にお楽しみ頂けるようになっていきますのでどうぞご利用ください。「貸し出し」の際には張り紙の規定を厳守して頂くようお願い致します。

なお、ご寄贈いただいた方々に、この場をお借りしまして改めて厚くお礼申し上げますとともに、引き続き皆さまの著書のご寄贈をお待ちしています。

河瀬清子(64期)記

【ご寄贈一覧】＝ (2005年12月末現在)

- 1) 玄 善允(81期)著『マイノリティ・レポート～「在日」だから見える?』(同時代社)
- 2) 玄 善允(81期)著
『大学はバイ菌の住処か?』(同時代社)
- 3) 小林裕幸(98期)著・朝日新聞社写真センター
編『写真集 知床～北の方舟』(中西出版)
- 4) 嶋 和彦(86期)寄贈
『CD 浜松楽器博物館コレクションシリーズ
1 「19世紀のサロン」』(ヤマハ)
『CD 浜松楽器博物館コレクションシリーズ
3 「チェンバロ」』(コジマ録音)
『CD 浜松楽器博物館コレクションシリーズ
4 「フォルテピアノ」』(コジマ録音)
『CD 浜松楽器博物館コレクションシリーズ
5 「クリストフォリ・ピアノ」』
(コジマ録音)
『CD 浜松楽器博物館コレクションシリーズ
6 「古管尺八1～音の表情」』
(コジマ録音)
- 5) 六稜66会編『咲古稀 卒業50周年記念』
- 6) 吉川直昭(61期)著『中小企業発展の秘訣
「利益を生み出すコツ」～ダメな社長への挑
戦状』(産業能率大学出版部)
- 7) 吉川直昭(61期)著『デザイン・レビューの
実務～新製品研究開発の秘訣～』
(日刊工業新聞社)
- 8) 樋口日出雄(69期)著(ペンネーム秋間平安)
『消えた遍路』(東京図書出版会)
- 9) 岸本嘉名男(68期)著『めぐり合い』
(思潮社)
- 10) 六稜62会寄贈
『一里塚 卒業25周年記念』
『一里塚 卒業30周年記念』
『一里塚 卒業35周年記念』
『一里塚 卒業40周年記念号』
『一里塚 卒業50周年記念号』
『一里塚 卒業55周年記念号』
- 11) 原 美由紀(102期)著『さよなら 死刑で
被害者は救われるのか』(新風社)

【書評】

■小林裕幸(98期)(朝日新聞社写真センター編)
『写真集 知床～北の方舟』

世界自然遺産にこのたび登録された北海道・知床をテーマにした写真集。美しさや豊かさの奥に、凛とたたずむ荘厳な野生の営み、森と海と流水が織りなす自然界のドラマ。朝日新聞社写真センターが報道的にとらえた知床の写真に抒情的コピー文5編。全写真キャプションつき。英文もすべて併記。

知床の全体像を紹介する「知床の素顔」に始まり、動物の営みを伝える「生き抜く力」と生命のつながりや食物連鎖を取り上げた「いのちのリレー」では、美しいだけでなく、死の瞬間のエゾシカや、その死肉を食べる動物などの厳しい表情が捉えられている。そして、知床の特徴である流水を舞台にした「雪と氷の世界」。最後は、海でつながり、多くの動物たちが行き来している北方領土やサハリンの自然をとりあげた「No Border」の項で終わっている。

■嶋 和彦(86期)寄贈

『CD 浜松楽器博物館コレクションシリーズ 1』(ヤマハ)

『CD 浜松楽器博物館コレクションシリーズ 3～6』(コジマ録音)

浜松楽器博物館所蔵の、ピアノ・チェンバロ、トランペット、フルート、トロンボーン、三味線、尺八、琴など19世紀に使われていた珍しい古楽器により演奏した数々の曲が収録されている。現在聴いている楽器とは一味違った味わいで聴ける貴重な演奏のコレクション。

■樋口日出雄(69期)著(ペンネーム秋間平安)
『消えた遍路』(東京図書出版会)

同作品は2002年にテレビドラマ化され、テレビ東京系のサスペンス物語“女と愛とミステリー”で放映された。なお、2005年第2回東京図書出版会出版文化賞優秀賞作品に本著書が選ばれている。

■岸本嘉名男(68期)著『めぐり合い』(思潮社)
旅のうたとしては「釣り橋ゆらり(2003年出版)」に継いで2冊目。

「私にとって、旅とは出会いであり、心の癒しである。古来その感慨が和歌や俳句や紀行文等で表現されてきたものが、私には詩であったり、歌謡詩であったりする…」と関西詩人協会会員である著者は述べている。

河瀬清子(64期)

■同期会誌『一里塚』

第6巻を刊行—62期—

62期が5年ごとに刊行している同期生の文集『一里塚』が、今年で6冊目となった。

卒業後20年を経た頃から、同窓会を開こうという機運が活発になるという説がある。がむしゃらに前を向いて生き続け、不惑の齢を越えてふと立ち止まり、振り返って何かを確認したい頃なのかもしれない。

わが62期も同様で、卒業後18年から毎年開催が続き、2年後の20周年記念パーティは、出席者が倍増する盛況となった。その頃から文集発行の話が次第に具体化し、卒業学年のあるクラス誌の名を受け継ぐことになった。現在の『一里塚』に巻数が記されていないのは、そのためである。

62期は、昭和19年に北野中学校に入学し、25年に北野高等学校を卒業した。2年生の前半は、服部緑地で米と芋作りに明け暮れた。6月15日のB29数百機による第4回大阪大空襲では、焼夷弾爆撃で火の海と化した校庭で2名の学友を喪った。敗戦で、軍国少年は一転して民主主義少年となった。4年終了後の学制改革では、数十名が自らの意志で大手前高校に移った。24年春には、野球部が選抜大会で優勝し、ほぼ同じ頃、学友2名が自らの命を絶った。卒業後は、戦後復興期・高度成長期・バブル崩壊期と、世の浮き沈みに揉まれ続けた。

波乱の60年余りであり、書く材料には困らない。しかし、齢を重ねるごとに筆は重くなり、在籍者数が減ると共に、寄稿もやや少なくなった。それでも、思いをここに託したいという長文もあり、1回の休刊はあったが毎号200ページ前後を維持して今回に至ったのは同慶の至りである。

六稜文庫にも並んでいるので、他期でも興味を抱かれた方は、ぜひ御披見いただきたい。なお、『一里塚』発刊の翌年から、同期会の案内をかねて、B5版2面の『六二会報』を会員に届け、今年で31号に及んでいる。

この期は、戦時下の疎開や自宅焼失で転校した者や、前述の大手前高への編入など、道半ばで別れた友も多く、逆に戦後の転入者もかなりあって、6年間在校した者は、現在の在籍者数よりさらに少ない。それにもかかわらず同期生の絆が固いのは、『一里塚』、『六二会報』2誌の資するところ多大であると言えよう。

加藤知彦(62期)記

東京六稜倶楽部活動報告

東京六稜倶楽部事務局

平成15年1月に始まった本会も回を重ねること36回、出席者も延べ2200名を越しました。此処まで続けられたのも講師は勿論のこと毎月愉しく出席して下さる会員の方々の御蔭と感謝しております。最近の活動状況は次の通りです。

■第32回（8月17日）

（株）ニコウトラベル

坂本知美さん（109期）

『海外旅行をしませんか！』

シニア海外旅行泣き笑い添乗妃！

若い講師が、平均年齢70歳のシニア海外旅行添乗員としての苦労話や失敗談の数々には、爆笑又爆笑。しかし「人生最後の旅をご一諸できて良かった。」との礼状に涙し、人生の大先輩に自分のほうこそ元気を頂き学ぶこと多き旅であるとのエンディングに大拍手。



■第33回（9月21日）

野口憲三郎さん（53期）

『正しく歌おう北野の校歌』

創立120周年の時には、六稜楽友会会長として“第9”の合唱を実現したヴァイタリティは今も健在で朗々と指導される。日本人は短調が好きで、楽譜が長調で書かれていても歌われる時には短調となる。



旧制一高の寮歌“嗚呼玉杯に花うけて”も楽譜は長調だが歌われる時は短調になる。北野の校

歌も1～3番と段々テンポが速くなる。

4番は「われらのかがみ」と歌われるが「われのかんがみ」である等を皆に歌わせながらのご指導で、会場に正調校歌が流れる。最後に53期メンバー全員が70年前の中学1年生時代に戻り歌われた「新しい帽子」の合唱は圧巻であった。

■第34回（10月24日）

日本産業ガス協会常務理事

杉浦澄さん（75期）

『安全のパラダイム変換』

JR西日本の尼崎事故をはじめ私達の社会には危険が満ち満ちている。安全を守る為には、今までの様に結果に対して打たれる後手後手の対策でなくリスクを生む原因（＝危険の基本前提を明確にする）に対し手をうつ必要がある。「故」有って「事起こる」のが事故。∴「故」無ければ「事故」無し。過ちは人の常であるが、ヒューマンエラーで無くヒューマンファクター（人間特性＝必ず存在する）としてとらえる。危険検出型でなく安全確認型の考えで対応する革命的な発想の転換（パラダイム変換）が必要となる。堅い内容の話を手際よく整理されての講演に皆納得。



■第35回（11月16日）

建築家、京都大学助教授

竹山聖さん（85期）

『建築の喜びについて』



北野新校舎、新六稜会館の生みの親である講師が態々大阪から出向いて来て下さる。様々な作品のスライドを通して、デザインを形にして行く建築の喜びを分かり易く話

して頂く。

様々な規制を守りながら、施主（クライアント）の要望を如何に盛り込むか、又自分の事をどう実現するか。例えば同窓会館の3階ホールには、奥の方に光の射し込むスペースを作り瞑想や祈りに通ずる空間を考えた。最近作 京都ブライトンホテルのチャーチ等

■第36回（12月21日）

衆議院議員（自由民主党）

松島みどりさん（87期）

『小泉改革の総仕上げ』

元気一杯の講師は、前回の選挙では東京14区から立候補してトップ当選を果たす。トレードマークの赤い洋服で登場されたが、選挙の実態、普段の活動の大変さ 盆踊りに百回も参加する地道な努力を重ねて当選を重ね、政治の中枢に近づいて行く。今は党の経済産業部会長として経済政策の作成に当たっている。官から民への掛け声が大きいが、単に形式的に民営化するのではなく、今までの民間への対策も生かされるように総合的に考える。例えば商工中金に金融債の発行を認める党の配慮も大事。最後に選挙の時だけでなく普段から自分の選挙区の議員の活動に注意を払ってほしい。



■第37回（1月18日）

千田稔さん（57期）

『東洋医学=漢方とは如何なるものか？』



本年第一回の講演は、自ら漢方的生活を実践し、矍鑠としておられる講師登壇で説得力自ずから有り。6世紀前半仏教と共に渡来した漢方は、江戸末期に『蘭方（オランダ医学）』が入ってくるまで独自の工夫改良を加えつつ発展してきた。3大古典『黄帝内経』（医）『神農本草経』（薬）『傷寒雑病論』（治療）は2千年前から存在する。

漢方の治療は気や血の滞った身体のバランスを回復することで、そのために約四百種の生薬を組み合わせ調合し服用する。慢性的な病気や全身的な病気に効果を発揮する。一方西洋医学

は一つの症状・病気に対する直接的な治療～感染症の殺菌、熱や傷みの除去、血圧を下げる等の手当てをする。それぞれの分野で得意技がある。今後は両者の統合が図られよう。現に各大学医学部に漢方の講座や治療が取り入れられている。

【今後の予定】

□【第38回】平成18年2月15日（水）
「ブラジル、ユーカリ、ティッシュペーパー」
西尾大次郎さん（66期）

□【第39回】平成18年3月15日（水）
「航空機の安全性
～ハイテク機におけるヒューマンファクタ」
佐藤達男さん（75期）
（富士エアロスペーステクノロジー（株）
常務取締役/帝京大理工学部非常勤講師）

□【第40回】平成18年4月19日（水）
「（演題未定）」 中江要介さん（53期）
（元中国大使）

□【第41回】平成18年5月17日（水）
「個人情報保護法1周年
～あなたの個人情報は大丈夫ですか」
砂田健次さん（92期）
（損保ジャパン）

□【第42回】平成18年6月21日（水）
「（演題未定）」 宇津木紀子さん（91期）
（童話作家）

□【第43回】平成18年7月19日（水）
「中国を知る～72回訪中を通して」
田中 昭さん（75期）
（住友重機械工業（株）本社営業統括室長
兼中部支社長）

時間：いずれの日も11:30～14:00（開場
11:00）を予定

場所：銀座ライオン7丁目店
6階「ライオン銀座クラシックホール」
東京銀座・松坂屋となり
Tel.03-3571-2590

会費：2,000円

第49回総会は、平成18年6月1日（木）午後6時から、「日本工業倶楽部」で開催される予定である。

母校に還った六稜生

思い出は胸の奥深くに

池田雅文（84期）

ふと気がつくと、北野高校に戻って22年が過ぎようとしています。教師になって30年、そのうちの22年をありがたいことに母校で過ごさせてもらっています。念願の教師になって以来、多くの人に助けられながらも、そのときそのときに全力を尽くしてきたつもりです。しかし、30年の節目に振り返ってみると、果たして何ができただろうか、という気持ちになるのが近頃の正直な気持ちです。

◇入学時

私が北野高校に入学したのは昭和44(1969)年です。当時、大阪府の公立高校は5学区に分かれていて、高槻市から通いました。昭和48年には9学区に変更になったので、それ以降中学校の後輩は入学してなくなりました。平成19年からは、4学区に変更になるので、再び後輩が入学してくることになりそうです。

◇母校に戻って

さて、私が北野高校に物理科教諭として戻ってきたのは昭和59(1984)年でした。そのとき、物理の準備室におられた先生は、すべて生徒のときにお世話になった先生方でした。教員の大半が恩師という状態でしたので、ようすもよくわかり、かえってのびのびと、本当に自由にさせてもらいました。いろいろいたらない部分は、さりげなく教えていただきました。

それでも、教員として北野高校に戻ってみてさまざまな機会にお話を伺うと、生徒のときに思っていたこととは相当違うと感じたことがいくつありました。

ひとつは、生徒のときには、担任の先生はいぶんとほったらかしにするものだと感じていましたが、そうではなかったことです。問題を抱えている生徒や、勉強で遅れている生徒には手を尽くして、そっと支援されていました。本



当に多くの経験を積み、北野高校の生徒にとって何がよいのかということをお最優先にしておられることがよくわかりました。

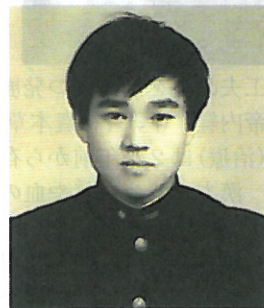
つぎに、授業についてですが、多くの先生が大ベテランでしたから、部屋で授業の準備に真剣に取り組むというふうではありませんでしたが、丁寧に準備されるとともに、お互いの授業については、よくわかっておられて、教員相互の評価は結構厳しいものでした。教科の内容についても、何かあったときには、相当つまこんだ議論をされて知識を深めてこられたと聞きました。

また、学校の運営についても同様で、私が在学していた昭和40年代頃には、生徒のために第一に考えて、かなり積極的な取り組みをされてきたそうです。また、お互いの意見をよく承知し、会議以外での意見交換や評価もよく行われて、何年も先を見通して行動されていました。いま教育界では経営マネジメントということがよくいわれるのですが、北野高校でははるか以前からそのようなことが行われてきたといえます。

◇私の高校時代

知った先輩がいるのに勧誘にこないことを不服に思いながらも、入学して即座に部活動に参加しました。それ以来、毎日疲れた体にむち打って予習復習に明け暮れた3年間でした。

大学生になってからもしばらくは、「明日の予習が済んでいない」と、どきっとして夜中にとび起きることもあるぐらいでした。全国的に広



がった学園紛争は下火になっていましたが、社会や政治についてもいろいろ考えさせられる大事件が起きました。

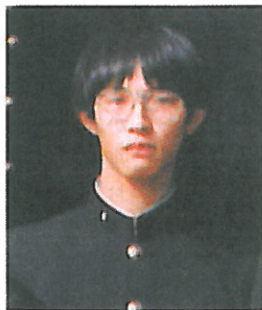
高校時代を振り返ってみると、自己の内面の成長なり変化は相当激しかったと思います。周囲には、勉強がものすごくできる人もいたし、相当な悪に見える人もいたし、飄々とした人もいて、本当にいろいろな意味で学ぶべき人が多かった。そういった中で多元的な自己を形成した3年間はとても人には語れません。本当は、恥ずかしくてとても言えないことだらけの3年間だったのです。

それでも、自分の中では、よい思い出がたくさんあり、悪い思い出はほとんどありません。ですから幸せに過ごした、あつという間の3年間だといえるのですが、そういうように語ると、何か違っているという気がします。結局、私の高校時代の思い出は、自分自身の胸の奥深くにそっとしまっておくしかないようです。

苦手科目でも 嫌いにはさせない

富山一紀（100期）

入学は昭和60年、ベビーブームで生徒数が急増していた時期である。入学式直前に校区に引越してきたため、中学校からの友人は一人もいなかった。北野高校についても、勉強を頑張らせてくれる学校という以外は、何の情報も予備知識も持っていなかった。



入学してまず授業のスピードと内容の濃さに驚いた。当時の某先生の表現をお借りすれば「予習せざる者入るべからず」の学校である。家庭学習が不十分だと

あつという間に置いていかれてしまう授業も多かった。難しい、予習が追いつかない、と言いながら皆が頑張って授業に食らいつこうとしている雰囲気は刺激的で心地よかった。

座学の想像以上の大変さもさることながら、面食らったのは体育のハードさである。授業回数が多く、曜日によって違う種目をこなさなければならない。その上、出される課題は運動が得意でない者には一つの例外もなく難しい。聞

けば合格が決まるとすぐにスイミングスクールに通い特訓したという級友もいる。えらいところに来てしまったと思った。校区に住んでいる者にはその厳しさは知れ渡っていたらしいが、後悔しても既に手遅れであった。

中でも1年生の時に週に一度あった器械体操には本当に苦勞した。入学後最初の課題であった高鉄棒での蹴上がり（ぶら下がって体を前後に大きく振り、反動で鉄棒の上に上がる運動）から躓いてしまった。相当練習したが全くコツがつかめず、ただ不器用に体を揺らすばかりの自分が風に吹かれる洗濯物にでもなったようで、何とも惨めだった。その後も出された課題はほとんどクリアできず、器械体操の授業がある日は自分の無様な姿を想像して朝から気が重かった。

校舎が改築され校内の風景が一変した今も、高鉄棒はグラウンドの隅に残っていて、目にする度にあの時の情けない気分が蘇る。近年は授業で使われることもほとんどなくなってしまったらしい。今の生徒を羨ましく思うことの一つである。



苦手ではあったが体を動かすこと自体は嫌いではなく、運動系の同好会にも入って活動した。幸いにして良い仲間にも恵まれ、卒業から18年経った今も折に触れ連絡を取り合っている。当時あれほど体育で難儀しながらでも運動を嫌にならず、部活を続けられたおかげで築けた彼らとの関係、これが高校生活で得た最大の財産である。

担当教科である数学は体育と並んで北野生を悩ませる教科の筆頭に位置するらしい。私のものにも毎日のように生徒が質問にやってくる。「苦手科目でも嫌いにはさせない」ことのなんと難しいことか。縁あって母校の教壇に立つようになり九年、つくづく考えさせられる。私のような追試常連組がスポーツを嫌いになってしまわないように、当時の先生方はどのような配慮をして下さっていたのか。問題が解けずやって来る生徒達から数学や勉強の楽しみを奪ってしまわないように、自分に何が出来たのか。私は恩師から随分と重い課題を与えられてしまったようだ。

同期会紹介

74期の同期会活動について

74期は、昭和37(1962)年卒業。旧制中学から引き継いだ林校長が14年間の校長生活を終えられた年に当たります。大手前と交流の先生方もおられ、アカデミックな雰囲気が残っていた時代でした。

社会的には60年安保の影響も少なからずあった。名物先生のご指導も厳しいところがありました。

卒業後、同期全体の集まりは、なかなか実施できませんでしたが、卒業十数年を期に一同集まることになりました。

年齢を基準にして、開催された経過を見てみると、32歳になったときに、全体の同期会を開こうという話ができ、思い出の校舎で、思い出の先生の授業を受けるという企画が立てられました。出席いただいた先生のミニ講義が、いくつかの教室でありました。

その後15年間、全体会は開かれませんでした。卒業30年を迎えた47歳になったときに実施されました。それから数年後、基本的に毎年開くことが決定され、卒業のクラスごとに企画運営して毎年開催することになりました。それから毎年開催されています。



74期の著名人の一人、和太守卑良君寄贈の陶板の前で。一昨年の同期会。

やはり、同窓会活動は、人生の中で少し時間が取れるようにならないと開けないのか。

人生を振り返り、懐かしむ気持ちが募ってく

るのか、そういう年代があるのかと思います。他の期でも同じような傾向でしょうが、関西在住66%、関東は23%、他は色々な地域に住んでいます。そのため、東京でも、毎年同期会が実施されています。

同期会活動を継続するためには、献身的な数名のヴォランティアがおられることが必須だと思います。74期も何人かのヴォランティアがいたから、毎年続けてこられたものと思います。

寿栄松正信(74期)記

88期同期会紹介

「百年の不作」—私たち88期を示す言葉の一つ選べと言われたらこれである。一時期、巷で流行った言葉でいえば、「間違いない!」というところですよ。

欧学校創立から百年に当たる昭和48年4月、北野高校の門をくぐった88期生ですが、私たちの人試から学区が従来の5学区から9学区へと細分化され、北野高校を受験可能な地域は前年に比べほぼ半減。当然、優秀な生徒を集める母集団も小さくなったわけです。

先生方から「君たちの学年は『百年の不作』だからなあ」と言われても、上級生たちと直接学力を比べることができるわけでもなく、在学中はそんなものかなあとおおらかに聞き流していたのですが、いざ大学入試に臨み、現状は歴然と結果に現れました。「先生、おっしゃっていたのはこのことだったのですね。」と気がつくも時すでに遅し。

歳月は流れ、「百年の不作」と言われた我が88期もそれなりに仕事や家庭で相応の責任を負うような年齢となりました。その間、散発的に同期の者がぼつぼつと集まることはあったものの、全員を対象とした同窓会を初めて開いたのが平成11年。ついで平成13年、このときは北野高校に集まり、模擬授業を実施したのですが、昔話などに参加者皆が盛り上がり、今後は隔年で同窓会を開催しようといつのまにか決まっていました。



平成13年、当時の学年幹事を中心に、同期のあいだでの情報交流の場としてなにかできないだろうかとの話題がもちあがり、ちょうどインターネットの上で「メーリングリスト」なるものが使われつつあることから、これを立ち上げることになりました。

メーリングリストは、インターネットを使える環境を持っていれば、極めて安価に、時間と場所を問わず、しかも仲間内だけで情報をやりとりできる手段で、まず幹事たちが知り合いに声をかけ、徐々にメンバーが増え、今では同期生の半数近く、約200名が登録しております。内容も同窓会の案内はもとより、小さな集まり（「オフ会」と称しています）への参加呼びかけ、個人の近況、様々な情報、独り言まで多様なやり取りが交わされており、メーリングリストの開設以来、6万件を超える（1ヶ月平均1300件超）の投稿件数に達しています。

メーリングリストでのやりとりから生まれたイベントも少なくなく、例えば、同窓会館建設寄附費についてはメーリングリストや葉書で寄付を呼び掛けるほか、オフ会でのオークションや同窓会館でのバザーを開催し、88期として450万円を超える額を寄附することができました。この秋には、六稜トークリレーを開催し、これと併せて全体同窓会を行いました。特にトークリレーは、同期の田中秀樹くんが世界で初めてとなる「うなぎの完全養殖」について、いまだに見つかっていない天然卵のことから人口餌の探索へと最近の研究成果も含め静かなユーモアを交えつつ説明しました。幸い、来場されたOBの方々にも喜んでいただいたようなので、幹事を始め皆、開催して良かったなあと考えております。

今後、88期の仲間たちは、高校時代を振り返

る仲間としてだけでなく、会社や地域といったしがらみもなく、様々なことを語りつきあえる貴重な友人たちとして、ますます重要になってきます。同窓会、オフ会、メーリングリストなどいろいろなやり方で末永く88の輪を広げ、ひいては六稜同窓会の活動にもつなげていきたいと願っております。

平成19年度には、88期も50歳を迎え、六稜同窓会及び東京六稜会のそれぞれの総会の幹事期に当たる予定になっております。

やっぱり「百年の不作」というのでなく、さすが「百年の不作」と言われるような楽しい総会になるよう努力してまいりますので、六稜同窓会会員の皆さまにおかれましても、よろしく御指導御協力を御願いたします。

片山 信浩（88期）記

六稜グッズ

〔六稜会館・新校舎スケッチ〕

絵：小森裕三氏（66期）

横浜在住

日本スケッチ画会友

ペン彩画会員

10枚組 500円

申込記号 PSS



〔LAST SHOT〕

写真 矢作教諭

8枚組 500円

申込記号 LST



六稜同窓会会則

(名称と所在地)

第1条 本会は、六稜同窓会と称する。
本会事務局を、大阪府立北野高等学校
六稜同窓会館に置く。

(会員とその義務)

第2条 本会は、会員・特別会員をもって、組織する。

1. 会員は、大阪府立北野高等学校、ならびに、その前身校の卒業生、および、これに準ずる者。
2. 特別会員は、母校の教職員、および、旧教職員。
3. 会員は別に定めるところにより、入会金及び年会費を納めるものとする。
4. 会員は住所等の変更のある時は、速やかに本会事務局に報告することとする。

(目的)

第3条 本会は、会員間の親睦をはかり、母校の発展に寄与し、あわせて、社会公益に貢献することを目的とする。

(役員、その職務、および、任期)

第4条 本会に、次の役員をおく。

1. 名誉会長 1名 母校校長が就任する。
- 会長 1名 常任理事会の推薦により会員のなかから選出し、理事会で決定する。
- 副会長 若干名 常任理事会の推薦により会員のなかから選出し、会長が委嘱する。
- 常任理事 若干名 理事のなかから選出し、会長が委嘱する。なお、必要と認めるときには、常任理事会の推薦により会員のなかから、会長が特に委属することもできる。
- 学内常任理事 若干名 母校の教職員のなかから選出し、会長が委嘱する。
- 理事 若干名 第6条の規定によって推薦された会員を、会長が委嘱する。

なお、必要と認めるときには、常任理事会の推薦によって会員のなかから、会長が特に委嘱することもできる。

監事 若干名 会員のなかから、会長が委嘱する。

顧問 若干名 必要に応じて、会員のなかから会長が委嘱する。

2. 名誉会長は、会長の委嘱により、本会を代表する。
会長は、本会会務を統括し、本会を代表する。
副会長は、会長を補佐し、必要に応じて、その職務を代行する。
- 常任理事、ならびに、学内常任理事は、常任理事会を組織し、重要事項を協議し、執行する。
- 理事は、各年度会の運営をはかるとともに、理事会を組織して、重要事項を協議する。
- 監事は、本会資産の管理に任じ、収支決算の監査をする。
- 顧問は、会長、副会長、常任理事会の諮問に応ずる。
3. 役員の任期は、いずれも2年とする。
ただし、重任を妨げない。

(事務局、および、各種委員会)

第5条 本会に、事務局をおく。

1. 事務局の長である事務局長は、常任理事会の推薦によって会長が委嘱する。
2. 事務局長の任期は、2年とする。ただし、重任を妨げない。
3. 事務局長は、会長・副会長を補佐し、常任理事会、ならびに、理事会によって定められた事務を行う。
4. 事務局長は、各種委員会活動について円滑な推進のための調整を行う。
5. 事務局長は、第8条に定める同窓会事業についての報告を受け、指示を行う。
6. 事務局は、事務局長の指示にしたがう、

本会会務についての議事録の作成、会員名簿の訂正、慶弔連絡などの事務を分掌する。

7. 入会金、会費、寄付金及び関連する諸収入については事務局が取扱う。

(年度会)

- 第6条 会員は、各年度毎に年度会を組織し、理事1名(ただし、63期以降は、男女各1名)を選び、本会事務局に報告する。

(経費)

- 第7条 本会の経費は、会費、寄附金、その他の収入をもって、これに充てる。

(事業)

- 第8条 本会は、第3条の目的を達成するため、総会の開催、会員名簿の作成、会報の発行、その他の事業を行う。

(会計)

- 第9条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月末日に終わる。会計事務は、事務局がこれを取扱い、前年度の収支決算は、理事会の承認を経た後、会報に掲載される。

(会員情報の取扱)

- 第10条 本会は会員の情報(氏名、住所、電話・FAX番号、Eメールアドレス、勤務先・職業・所属、在校時のクラブの情報(以下「会員情報」と言う)の収集・利用・提供及び登録に関し、次のように取り扱う。

1. 個人情報の保護に関する法律を遵守し、本会(業務の一部を事業者に委託するときはその事業者も含む)は会員情報を厳重に管理する。そのため次の責任者をおく。
個人情報保護管理責任者(本会役員をもつ

てこれにあてる)

個人情報保護監査責任者(本会監事をもってこれにあてる)

個人情報取扱作業責任者(本会事務局長をもってこれにあてる)

2. 本会は第8条に定める事業を実行するため会員情報を利用する。
3. 会員は六稜同窓会名簿等会員情報の第三者への漏洩なきよう守秘義務を負うものとする。
4. 会員のうち、自己の個人情報の一部又は全部を、発行する名簿に記載しないことを希望する場合には文書により事務局に届け出ること。本会はその会員の指定する情報については発行する名簿から除外する。
5. 本会は会員の個人情報を本人からの同意ある場合以外は開示しない。
6. 年度会、クラブOB会等よりの会員情報の開示要求については当該年度理事、クラブOB会責任者からの請求を必要とする。

(会則改正)

- 第11条 本会会則の改正は、総会、または、理事会の議決を経なければならない。ただし、緊急を要する事項は、常任理事会が議決することができるが、この議決は、直近の総会、または、理事会において承認を得なければならない。

- 附則1 本会会務の執行に関する必要な細則は、理事会の議決を経て、これを定める。
- 2 本会会則について疑義を生じたときには、常任理事会の協議を経て、理事会がこれを決定する。

平成17年4月23日改訂

トピックス

色々な分野で活躍をしておられる六稜関連の方々に、表彰などを受けられた方のご紹介をします。

中垣芳隆校長 平成17年度教育者表彰受賞

中垣芳隆校長がこのほど平成17年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）を受けられました。

本表彰は「学校教育の振興に関し特に功績顕著な教育者」に対して授与されるもので、大阪府教育委員会幹部職員、箕面市教育長、本校校長ならびに府立高等学校長協会会長としての、学校教育への積年の寄与・功勞に対し、府内高等学校関係者としてはただお一人の受賞でした。

去る12月12日東京国際フォーラムホールで行われた表彰式にご出席、表彰状を授与された後、場を皇居に移し、天皇皇后両陛下に拝謁、親しく労いのお言葉を戴かれました。

なお、先生は、昨年の5月には大阪府の教育功勞者として憲法記念日知事表彰を学校教育関係の被表彰者を代表して受領されてもおられます。



鎌田教頭記

脇田晴子さん(64期) 文化功勞者受賞

京都大学文学博士、城西国際大学客員教授。六稜64期。昭和31年に神戸大学文学部を卒業後昭和38年に京都大学大学院博士課程修了。橘女子大学助教授・教授、鳴門教育大学、大阪外国語大学、滋賀県立大学教授を経て名誉教授。現在、城西国際大学教授。これまでワシントン州立大学、オックスフォード大学セントヒルダス・カレッジ、仏国立社会科学高等研究院、豪州モナシ大学の招聘客員教授。



日本中世社会史・女性史・芸能史専攻。主な著書に『日本中世商業発達史の研究』（お茶の水書房1969年）、『日本中世都市論』（東京大学出版会1981年）、『日本中世女性史の研究』（東京大学出版会1992年）、『日本中世被差別民の研究』（岩波書店2002年、第25回角川源義賞）、『中世に生きる女たち』（岩波新書）、『女性芸能の源流』、『中世京都と祇園祭』等多数。能楽に造詣深く趣味で舞われる。夫君は62期脇田修氏（大阪歴史博物館長）

丸野豊子さん(66期) 女性初の大阪府公安委員長に

キッズプラザ大阪館長。昭和33年に京都女子大を卒業後、昭和30年代後半より消費者問題に関わり、NHKテレビ・ラジオで「土曜ポスト」「くらしの経済」「生活メモ」「私の見たこと聞



いたこと」「くらしのメモ」などに20年間レギュラー出演。新聞コラムなどを通じ生活評論家として活躍。大阪府教育委員会委員長、第52回国体大阪府実行委員会副会長、ワールドカップ大阪府招致委員会副会長などを歴任後、科学技術庁海洋科学技術センター長期計画検討委員会委員、大蔵省近畿財務局国有財産近畿地方審議会委員、文部科学省・ロボット創造国際競技大会中央委員会常任理事、独立行政法人・海洋研究開発機構経営諮問委員、(財)つくば科学万博記念財団評議員など各種審議会・委員会など20を越える要職を兼ねている。

岡田一彦(65期)記

高木和弘さん (103期) 芸術祭賞新人賞受賞



高木和弘君は、現在ドイツのヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団の第1コンサートマスターを務めておられるが、昨秋一時帰国され、10月26日と31日にザ・フェニックスホールで無伴奏ヴァイオリンリサイタルを催された。初回はパガニーニの奇想曲全24曲を連続演奏、非常な好演で、拍手鳴りやまない中、いつもは何曲も弾くアンコール演奏も辞退するほど。全精力を振りしぼっての熱演であった。翌日はNHKテレビに出演されたこともあって第2日は満席札止めで、難曲中の難曲とされるエルンストの「庭の千草」変奏曲、バッハの無伴奏パルティータ第2番などを好演され、それぞれ、大阪文化祭賞・文化庁芸術祭新人賞を受賞された。今後は、日本での活動も増やすつもりだといわれており、すでに2月には、ヴェルテンベルクフィルハーモニーの大阪公演も決まっている。今後の一層のご活躍を期待したい。

加藤知彦 (62期) 記

三世代の六稜ラグーが誕生

北野高校ラグビー部に大変目出度いことが出来ました。親、子、孫の三代ラグーマンが誕生したのです。

兄弟ラグーは数多くあり、親子六稜ラグーも数組ありますが、三代となると、北野の他の運動部でも余り聞いたことが無く、快挙であり、古い伝統校なればこそのことだと思います。

初代は下平嘉昭氏 (61期) です。入部当初より、主としてスクラムハーフとして活躍し、昭和22年度には主将として北野ラグビーをリードしました。全国大会予選では優勝戦に進出し、また昭和20年12月に復活し、2連敗中であった対天王寺定期戦にもリベンジしました。北野卒業後は、早稲田大学で名ハーフとして鳴らし、当時国内でラグビーの最高試合であった東西対抗戦に出場して活躍しました。

卒業後もクラブチームで活躍すると共に、ラ

グビー協会役員として、また名レフリーとしてラグビー界の発展に大いに貢献しました。

二代目は憲義氏 (90期) で、小学生の時から大阪ラグビースクールで好選手の素質ありと注目されていました。二世誕生で、OBも現役の支援に力が入り、練習のコーチのみならず、度々現役OB合同の食事会を開いて、現役の栄養補給をすると共に、両者の交流を図って現役の強化に努めました。

センターとして活躍していた憲義氏は昭和52年 (1977) 主将に選ばれました。この年はFWにも好選手がおり、好成績が期待され全国大会予選で準々優勝戦まで進出しましたが近大附高に敗れました。

尚、この昭和52年は自見弘之氏 (70期) が監督に就任した年であります。氏は昭和62年 (1987) に北野ラグビーを久々の花園出場に導いた名監督であります。

憲義氏は昭和53年3月に高校オールジャパンに選ばれ、オーストラリア・ニュージーランドに遠征活躍しました。この時の遠征チームの団長は、元北野ラグビー部長の中島直巳先生でありました。

仄聞するところによりますと、自由時間の外出時には、言葉の解らぬ他校の選手が、文武両道の北野について行けば何とかなるだろうと、ぞろぞろとついて歩いたそうです。

北野卒業後は、京都大学及び神戸製鋼でセンターとして活躍しました。



泰生君(119期) 嘉昭氏(61期) 憲義氏(90期)

平成16年 (2004) 4月泰生君 (119期) が入学して直ちにラグビー部に入部、ここに目出度く三世代の六稜ラグーが誕生したのです。

良いことがあれば悪いこともありで、近年少子化のために北野の入学生数が激減しており、

従ってラグビー部員数が減少して、メンバー編成に苦勞する年が多くなりました。

特に平成16年度は男子生徒の入学がたったの160名であり、ラグビー入部者は5名のみとなり大ピンチとなりました。唯平成17年度に14名の入部を見て一息ついた状態ではありますが、この少子化傾向はまだまだ続くと思われます。

泰生君は祖父嘉昭氏と同じポジションのスクラムハーフで、一年生から試合に出て頑張っています。祖父、父と同様に名選手に育ってほしいと思いますが、それよりも久しく遠ざかって居る花園への栄光の道を、部員一同団結して邁進してほしいとOB一同念じております。

比山 實二 (63期) 記

総会を縁に

大先輩との交流秘話

今、私の手元に、講談社から2005年11月発行の前問孝則著「戦闘機屋人生」という本がある。戦闘機というタイトルは、いささか物騒な印象を持たれるかもしれないが、この本に描かれているのは、一人の防衛庁技術官（後年は航空宇宙工業会顧問）の人生が描かれた伝記である。あくまで技術者として航空機技術のあるべき形態を考え、戦闘機に限らず旅客機を含む航空機技術の開発路線を引いてきた高山捷一氏(45期)の人生そのものである。この本では各所で高山氏ご自身の技術に対する考え方が述べられているが、その内容は航空機に限らずあらゆる工業製品について、わが国が優れた技術を維持していくためにどうあるべきかを示唆するものとなっている。

実は、132周年総会に向けて86期準備委員会が立ち上がった2005年春のこと。わが国の航空宇宙工業会の最長老であられるこの高山先輩が私の勤務先をご来訪された際、現在進めている新しい旅客機用空調装置の技術開発についてご説明させていただく機会に恵まれた。あるきっかけから、高山先輩が45期のご卒業で、また東京ご在住であることを知ったので、お帰りになる前に、「6月の東京六稜会の総会にご参加されませんか？私の友人がSuica開発の苦勞談をお話しますの。」とお誘いした。ただ、近年は夜の会にご辞退されている旨を言われたが、同時に「それじゃ君も北野中学出身なのかね？」というお言葉を返され、これには少々苦笑してし

まった。また後日、丁寧なお葉書もいただいた。

秋の総会では、最年長の方に懇親会で乾杯の音頭を取っていただくのが恒例であるが、先日の132周年総会では森島重勝先輩(45期)にこの役をお願いした。この時に高山先輩か

らのお葉書をお見せしたところ、非常に驚かれるとともに、高山先輩が関わられた学生時代のエピソードなどもお教えいただいた。実はこの45期には森繁久彌先輩もおられ、今でも交流の盛んな期なのだろう。後日、私自身が購入した「戦闘機屋人生」の本は森島先輩に差し上げた。全く分野が違うが、やはり一人の人生が描かれている森繁久彌／語り・久世光彦／文の「大遺言書」とは双璧をなす書物であり、そしてどちらも45期の宝であるとの森島先輩からの書評をいただいた。

贈呈

高山捷一

今回、高山先輩からは、本の最後のページにご自筆のサインの入った「戦闘機屋人生」をいただいた。六稜会館の所蔵品に加えていただければ、との高山先輩のお気持ちを汲み、この本は同窓会事務局にお持ちしたい。

それにしても45期の皆様はお元気な方が多い。90歳を越えてもこのような交流のできる期でありたいものだ。

斎藤英文 (86期) 記



六稜グッズ

【新旧校舎ポストカード】

写真11枚昭和校舎

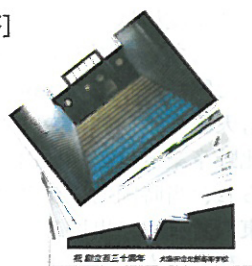
絵4枚岡村隆久氏

(77期)堂島、中津

昭和、平成各校舎

15枚組 1,000円

申込記号 PSC



PARTY REPORTS

パーティレポート

通期行事（六稜人すべてが参加できる行事）、同期会、各種行事のジャンル別に掲載しています
（同期会は期順、それ以外は開催日順）。

六稜58期

卒業60周年記念同窓会

小春日和の晩秋の好天気恵まれた平成11月26日午後、今年卒業60周年の節目を元気に迎えた私達58期の旧友26名がユニークな設計の六稜会館の1Fのサロンに集合しました。早速、西側壁面に故水鳥先生寄贈の掛時計に並んで設置された「級友村川一正君勤労動員殉難」の銘板に美しい供花とともに各自冥福を祈りました。六稜会館が存在する限り私達の思いが永く残るこの銘板の作成にあたり、献身的に貢献された橋本君をはじめ、以前からこの企画に熱心に提案されていた故小田一豊君、井上致明君、銘板設置許可に関し学校／六稜同窓会に対し推進協力して頂いた岡田同窓会事務局長及び趣旨に賛同寄金協力賜りました皆様方に厚く御礼申し上げます。

その後、地下の六稜ギャラリー、3階の大ホール、新校舎の多目的ホールで歴代校長と写真対面し、ついで昭和20年6月米軍戦闘機による機銃掃射弾痕跡がそのまま保存された校舎壁面下の被爆62期生の「殉難の碑」の前で合掌冥福を祈り、急いで学校前で数台のタクシーに分乗し、総会場の東洋ホテルに向かいました。

午後五時から、50名の出席者による「六稜58期卒業60周年記念同窓会」が2F「桜の間」で、芝居役者演技に益々円熟の奥田君の手慣れた司会で開会し、藤村代表幹事の挨拶、物故者（121名）慰霊黙祷、東京58期代表森田君の挨拶、尼崎幹事による六稜同窓会報告、奥田君より会計報告及び次期代表幹事／幹事全員留任の提案に対し、満場一致で可決されました。

午後5時半から、お待ち兼ねの級友森殺先生の卓話が始まりました。軟弱な協調性のない不良仲間にも入れないドジな分散型の生徒であったが、北野で世渡り術を覚えたことや、森ユレーの仇名の由来にいつもの如く軽妙に飄飄と話が進み、最後に人生は、20区切りで来年数え年で80歳を迎える私達も第5の人生を考える時、世の中入り混じっているので分散型にとって良い時代である。従って世の中のことを余り気に

せず気楽に楽しくやって行けばよいとの結論で約束通り丁度30分で終わりました。



お待たせの祝宴が例年のごとく清木幹事の乾杯の音頭で始まり持ち込みの銘酒、焼酎と5人の美人コンパニオンのサービスで談論風発、和気あいあい賑やかに時の経つのも忘れるぐらいの大盛会でした。最後に全員校歌斉唱し、集合写真撮影後8時30分来年の快老の友の集いに元気に再会を期して解散しました。尚、長年のパーキンソン病にもかかわらず車椅子に2人のヘルパーの介護で六稜会館／東洋ホテルに参加された河野泰通君の熱い心情に敬服するとともに更なるご自愛を祈念いたします。

学年理事 尼崎孝雄(58期)

66期同期会と記念誌

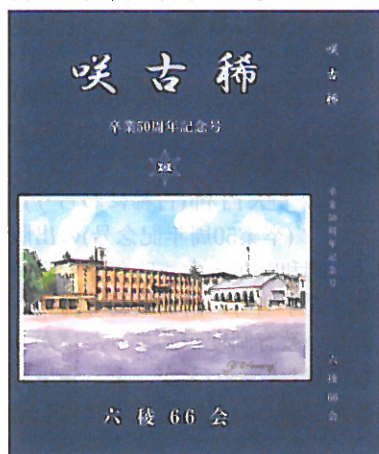
『咲古稀(古稀にわらう)』
(卒業50周年記念号)の出版

私達66期生は、昭和26年入学、昨年春で卒業50周年を迎えた。入学当時は講話条約も締結されておらず、新しい教育制度が始まったばかりで、衣食住ともに貧しかったが、よき先生方に恵まれた心豊かな楽しい北野高校生時代を過ごせた。



社会に出てからは、産業戦士として戦後復興、経済成長に大いに貢献した世代であるが、いつしか古稀を迎える歳になった。幹事はクラスの持ち回り制で今年は3組の仲庭成和君と蛭川昌が担当することになった。今回は66期記念誌の出版と並行して準備を進め、10月28日(金)に「ホテルグランビア大阪」の「名庭(ナニワ)の間」で開催し、92名の出席者があった。

会は12時に蛭川の司会で始まり、クラス委員の西尾大次郎君の挨拶、学年理事の北野禎三君の乾杯の発声で会食が始まり、今田弘君の東京六稜会の紹介、会館運営委員の奈木進君の六稜会の行事の紹介、記念誌表紙に旧校舎の挿絵を描いて頂いた小森裕三君等出席者等の近況報告の後、記念誌『咲古稀』(卒業50周年記念号)が配られ、水野(中川)瑛子さん、奈木君から出版までの舞台裏、苦労話について語って頂き、その頃には、あちこちで高校生時代の思い出話に花が咲き、会場は大変賑やかに盛り上がった。今回は座るテーブルはくじ引きで決め、テーブルごとに集合写真を撮り、名前を記入した全員の写真を送るという企画は、大成功であった。会はあっと言う間に閉会予定の15時を過ぎ次回幹事の松本充弘君の挨拶、仲庭君の閉会の挨拶、恒例の松岡茂雄君の指揮で校歌を合唱して同期会は盛況裏に終了した。



記念誌は、学年理事の北野君、水野さんと奈木君等有志奉仕者が中心となり、約1年近くかかって、原稿集め、資金集めに奔走し出来あがった貴重な作品です。表題は「いわれ」に記されている様に我々の願いを込めて『咲古稀(古稀にわらう)』と決めました。

投稿者は締め切り日が近づくにつれて増え、63名の玉章が集まりました。遥々とハワイから『青春の日々』を綴ってくれた関口(津村)愛子さん(元トリオコイサズ)のもの、当時の『六稜新聞』の記事等もあり、当時の諸々の出来事を初めて知る事となり、往時を偲ぶ何よりの縁

(よすが)となりました。

これを機に、旧友同士の交流が益々盛んになる事を祈念致します。

☆ 咲古稀の名前のいわれ

記念誌表題の「いわれ」について、本来は「卒業50周年記念誌」とすべきものであったが、丁度70歳を迎える歳となり、主題を「古稀」とすることにした。

この古稀に花を添える言葉として有志関係者の知恵者から「古来稀なるこの歳まで生を受けることが出来、第2の青春を迎えられたことを慶び、寿ほぎ笑おうではないか・・・」となり、それなら「花を咲かせて実を結ぶ」意味を含め、「咲」と言う字に願いを込めて、この文字を『わらう』とした。

蛭川昌、(奈木進)(66期)記

89期第1回同期会報告

1月8日、六稜会館1Fロビーで受付が開始されたのが12時。幹事さんたちが事前に編集した近況報告集を受け取ってあたりを見渡せば、29年の間に変わり果てた(?)同級生と変わり映えのしない同級生が互いに驚きの声を交わしています。今日のために集められたという高校時代のスナップ写真が拡大印刷されて展示されているし、恩師の先生が大事に保管されていたというクラス日誌やアルバムを見ながら歓声を上げているグループもあって、89期の第1回同期会は初っ端からテンションが高いです。

午後1時前に3階の六稜ホールが開場して、ゾロゾロと移動。158名の同期生と10人の恩師が参加しているので時間もかかるし、既に話し込んでいて1Fロビーから動こうとしないグループも多数います。それでも無理矢理ホールへと誘導。



まず、卒業後に逝去された恩師と同期生の名前が読み上げられ、29年という年月に思いを馳せながら黙祷がささげられました。坂平秀雄君と谷口則子さんの司会の下、四国より来ていただいた薬師寺先生(数学)に音頭をとっていただ

いて乾杯。この後はひたすらに喋り、飲みかつ食べながら同期会は進行します。

来賓にはこの他、井田先生(物理)、上田先生(英語)、大谷先生(日本史)、緒方先生(化学)、加藤先生(日本史)、須原先生(体育)、西川先生(音楽)、福田先生(物理)、御堂岡先生(数学)をお招きし、恩師たちの長い教員生活の中で我々がどういう学年として記憶されているのかという話を伺いました。また、教え子たちによる突撃インタビューでは「教員室でいつも居眠りされていたよな」という無闇に鋭い突っ込みもあってホールに暖かい笑い声が反響します。



今回用意された余興は、旧2年3組が文化祭で作った8mm映画「自画像 エヴァリスト・ガロア」のDVD復刻上映です。現在山田五郎の名前で評論家・タレントとして活躍している武田正彦君の主演。スクリーンに映し出された旧校舎や淀川河川敷の懐かしい風景を楽しみ、特別出演していただいていた薬師寺先生の名演技に拍手を送り、気負った17歳の青年たちが背伸びしながら作った30年前の作品を鑑賞しました。この後でDVDの即売会も行われましたが、たちまちにして60部が完売しています。

最後は、ちょうど1年前から集まってこの同期会を企画準備してきた塩谷(井上)千夏さん率いる幹事団からの挨拶です。クラス幹事を指名して、メールやら郵便やらを駆使して同期会名簿を一から作成・管理するところから始めて、膨大な雑務を分担して調整しながら綿密な計画を立て、今日の催しを見事に運営し切ったその手腕と努力に惜しめない拍手が贈られました。皆さん、本当にご苦労様。

かくて1次会は終了。同じ会場で続けられた2次会でも清藤浩之君と中山(小島)ふみさん司会の下、メンバー紹介や、30年前からまったくテンションの落ちていない西川先生特別指導によ

る校歌斉唱などが行われて、座は最後まで盛り上がりっ放し。そして会場の後片付けの後、クラスやクラブの集まりなどに分かれて3次会を行うべく、同級生たちは十三の街に散っていったのでした。

その後のメーリングリストには「あれから数日間、頭がまだボーっとしている」などの報告が寄せられています。卒業後の29年間に溜まっていたものを全開してしまったんですね。もうちょっと早くに企画すべき同期会でした。何はともあれ次回は梅本州一君が幹事代表として仕切ります。同期の皆さん、今後は梅本君への御協力をよろしくお願いします。

太田陸(89期)記

初めての同期会(114期)

年の瀬の12月27日に、114期の初めての同期会を開催しました。

就活に入った大学3回生、卒論に追われる4回が幹事であったため、幹事同士もなかなか集まらず、当日までに集まったのはたった3日だけでした。一人ずつ同窓会や鎌田先生を訪ねたり、名簿を各自で作ってメールで送りあってまとめたりと、準備が万全でないまま当日を迎えました。締切日に返信ハガキが返って来ていたのは実際出席した半分ほどでした。前日や当日後にハガキやメールが来ていることもありました。前もって、準備ができていなかったため、同窓会委員とクラス代表の数名は朝の10時に集合し、ジュースやお菓子、その他の備品を買出しに行き、会場設営を行い、バタバタと準備を進めていました。

そんな中、予定では120人以下の出席者が140人を超えるなど、座る場所がなくなり、余計にバタバタ。先生方に壇上に座っていただくことになってしまいました。



積もる話もたくさんあったようで、ゲームは予定より少なくして談笑の時間を増やし、会場也大いに盛り上がったようでした。

当日参加してくれた同期、遠くから参加してくださった先生方に感謝したいと思います。そして、いろいろお世話になった同窓会事務局の方々や鎌田先生、下村先生に本当に感謝しています。ありがとうございました。

【参加してくださった恩師の方々】(敬称略)

鎌田俊一、原田恵子、松本俊明、三輪雅、岩井清、福田稔、下村肇、下村孝夫

【進行表】

114期同窓会理事前田雅樹による司会進行。鎌田先生より挨拶。各テーブルにて談笑。下村肇先生より挨拶。テーブル対抗の○×ゲーム(景品:御当地土産)。自由に談笑。ビンゴゲーム(景品:同窓会から頂いた記念品)。

当日、同期会終了後は、各自自由解散とした。グループによっては2次会、3次会を行ったグループもあった模様。

玉井さくら(114期)記

還暦過ぎて念願の初優勝

第16回六稜期別対抗ゴルフ会が7月24日(金)に三田カントリー 27で開催されました。

この大会は平成2年8月25日に始まり、72期の第1回、第2回の連続優勝を含む7回の最多優勝および71期の第5回から5連覇という偉業などまさに両期の栄光につつまれた大会でした。そして我々73期は第1回から参加し、そのとき

は参加17期中12位という成績からのスタートでした。

成績発表で「優勝 73期」と告げられたとき「えーい やったあ」と思わず73期出場者全員がそろって歓声をあげました。単独での2位が1回あるのみですと71期、72期の後塵を拝していただけに感無量の優勝でした。



センターボールに日の丸と六稜旗に並んで73期の旗が掲揚されたときは、涙、涙、涙でした。(これは夢のなかでした)

勝因は 参加者全員に目標スコアを設定して臨み、その目標に全員がプラスマイナス2の範囲でラウンドできたことだったと思います。栄えある優勝メンバーは 栗田美仁雄、植田伊織、北浦久義、木村市三、久保禎夫、久保田静、柴田英二、永江溥、中村惣一、三木隆雄、山田功生の11名です。

次回の優勝祝賀会も75期の金井さん経営の焼肉店「東大門」で開催できるように精進したいと考えています。

木村市三(73期)記

六稜グッズ

同窓会では、六稜の雰囲気がいっぱいの六稜グッズを用意しています。同期会の記念品として、また机上に青春の思い出の品を置いてみてはいかがでしょうか。

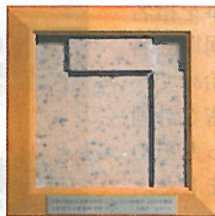


【130周年六稜同窓会名簿】

B5判1016頁

3,000円

申込記号 MEI



【昭和校舎のタイル】

18×18cm

5,000円

申込記号 STL



【六稜百三十年】

B5判127頁

2,000円

申込記号 130

#

英語科・福本宏樹教諭、レイク滞在期間が同・小林正樹教諭の予定です。

セント地区の「桜祭り」への参加では、例年どおり、日本文化の紹介にも一役買うことになります。今年も様々なレベルでじかに異文化体験・地域交流をしてきますが、昨年度に続き、この交流が生徒自治会間での交流をも深める契機となり、また何より得られた貴重な経験が、派遣校、ホスト校それぞれの学校へ還元されることを期待しています。

■118期学年理事選出

去る12月19日、本年3月卒業の118期学年理事選出のためのクラス幹事会議を開催しました。

当日は、岡田一彦事務局長(65期)、F R委員の田村亘さん(103期)・北野美穂さん(113期)より同窓会活動の意義についてお話しをさせていただき、その後話し合いにより学年正副理事を選出しました。

学年正副理事及び各クラス幹事を始めとする118期生の皆さんの同窓会活動への積極的な参加を期待するとともに、先輩諸氏のご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

学年正副理事及びクラス幹事は次の通りです。

【学年正副理事】

理事 田辺 晃悠
千熊 英津子
副理事 洞 翔太
栗田 あゆみ

【クラス幹事】

(1組)大城 朝是・小池 純子
(2組)田辺晃悠・千熊英津子
(3組)洞 翔太・奥浦 晶子
(4組)北川 哲・栗田あゆみ
(5組)藤井健太郎・黒田恵美
(6組)福西 拓哉・安井 有香
(7組)峠 英樹・高畑亜季子
(8組)島本 和季・高橋 祥子



部・同好会活動状況

平成18年1月8日現在

(北野WEBページより)

文化部・同好会

生物研究.....

現在部員3年1名、2年2名、1年1名で引き続き組織培養を中心に

活動中です。冬から春休みにかけて水鳥調査(淀川周辺、琵琶湖)をしました。文芸祭で発表を行いました。今現在、部誌「L U P E」40号の発行を目指しています。2003年春に発行した「L U P E」39号はまだ在庫があるので、郵送を希望される方はご連絡ください。

地学研究.....

* 8月3日～5日、姫路市宿泊型児童館「星の子館」にて合宿を行いました。児童館とはいえ、天文台には直径90cm望遠鏡があり、大人も満足できる施設です。初日の夜はあいにくの大雨に見舞われましたが、2日目の夜は快晴で、天体観測を行うことができました。

* 年輪と気候との関係はまだ調査中のため分かりません。

美術.....

8月 高校展、作品数 9点(二年4点 一年5点)夏休み中に製作、それぞれ思いのタケを画面にぶつけました!

10月 体育大会、看板製作(一年)校門に安置。今年のはめるへんていくな看板、看板をバックに写真を撮っていかれる方もおられました。パンフレット表紙デザイン(二年)

11月 陶芸、七宝焼きに続き今度は陶芸に挑戦。粘土をこねて箸置きやカップを作りました。粘土の感触が楽しい~

美術部は現在12人で活動しています。といっても運動部との兼部で忙しい人ばかりなので、全員が揃うことはなかなかありません。活動日は毎週月曜日を中心に、それ以外は好きな時間に個人の都合のいい日に活動しています。絵画だけでなく簡単な工芸の分野への挑戦ということで最近では七宝焼きのほかに陶芸も始めました。今は1月のコンクール展に向けて油絵を製作中です。美術に興味のある人大歓迎です。毎週月、金曜日の放課後美術室にて活動しております、どんどん声をかけてやってください!

コーラス.....

2月 文化芸術祭(予定)

現在コーラス部は1年生5人で文化芸術祭の発表に向けて活動しています。部員数は少ないものの、度胸と気合は人数分×2以上・の筈。1年生だけだと、何かと至らない面もありますが、来年度には部員が増加していることを祈って。

オーケストラ.....

9月24日 六校会館での

September Concertにて

アンダーソン作曲

The Syncopated Clock

ムソルグスキー作曲 展覧会の絵

久石譲作曲 アシタカセッキ

ドヴォルザーク作曲 スラブ舞曲

11月3日 アゼリアホールでの

第1ブロックにて

ドヴォルザーク作曲 スラブ舞曲

佐々木信明編曲 大河ドラマ『義経』

のメインテーマ

12月24日 クリスマス会

<ホームページ紹介> b

オケ部のホームページです。楽器紹介や、今後の演奏予定等があります。ぜひ一度遊びに来てください。

<http://www.geocities.jp/>

kitano_orch/

吹奏楽.....

7月24日 保護者親睦会・発表会(本校にて)

「驚の舞うところ」 マーチ「春風」「ハリソンの夢」

7月29日 大阪府吹奏楽コンクール北地区大会(大阪府立青少年会館) マーチ「春風」「ハリソンの夢」 金賞・地区代表

8月12日 大阪府吹奏楽コンクール(大阪府立青少年会館)

マーチ「春風」「ハリソンの夢」 銀賞

10月22日 北野高校平成17年度体育大会ファンファーレ、「星条旗よ永遠なれ」「レイダースマーチ」

10月29日 中学生体験入学(本校にて)

「たなばた」

11月3日 第一ブロック演奏会(池田市アゼリアホール)

「たなばた」「ティコティコ」

11月13日 アンサンブルコンテスト校内選考会・発表会

11月20日 近畿高等学校総合文化祭(ふくいホール)

「GR」「ティコティコ」

11月27日 ミニコンサート「音の大収穫祭」(本校多目的ホール)

「たなばた」「GR」他

書道.....

書道部は、1年7人、2年10人と、前年より部員数は少なくなりましたが、毎週月曜日に書道教室で活動しています。今は、文化芸術祭に向けて作品を制作中です。普段の活動では、書道教室の資料を使い、歴史上の有名な書家などの字を参考にそのテクニックを身につけ、個性ある自

分の「字」を書くことを目指しています。しかし、いまだに純粋な書道部員は少なく、合気道と兼部している部員だけでは、どうしても活動回数が少なくなってしまう。だから、興味を持った人はぜひ、書道教室までのぞきにきてください。

写真

写真部は3年が12人、2年が3人、1年が3人の計18名で楽しく活動しています。今年も6月の球技大会の写真から10月の体育大会での写真まで幅広く受け持ち、北野生の笑顔をたくさんフィルムに収めることができました。体育大会の写真の展示はまだ行っていませんが、今年も展示などをしていきたいと思っています。写真部はこれからもみなさんに喜んでもらえるような作品を残せるようにがんばっていききたいと思います。

囲碁・将棋

11月12日 大阪府高等学校囲碁新人大会 男子個人Aブロック4位のため 第25回近畿高等学校総合文化祭囲碁部門 出場

フォークソング

2005年1月…“文化芸術祭のオーディション”に参加!

3月・合格発表にて演奏

4月・二年部員4人入部!

総部員数8人に!

新入生歓迎演奏会に参加(あの紙ヒコーキ曇り空わって/19、パンザイ/ウルフルズ、車輪の歌/BUMP OF CHICKEN など)

5月・新入生が3人入部!

総部員数11人に!

6月・小林先生(英語科)が

新顧問に!

六稜祭に参加(スロープ、多目的ホールにて)

(友達の唄/ゆず、ループ&ループ/アジカン、BUSY X 2/押尾コタローなど計十数曲)

7月…三年生引退…

ストリートダンス

こんにちは。ストリートダンス同好会です! 私たちの同好会は2004年の11月に立ち上がりました。現在、部員9人[1年3人、2年6人(男3人、女3人)]で楽しく活動しています。「私たちはダンス軍団です。」クラブほど忙しくはなりたくないけど、クラブにちょっと入りたいという人は、ぜひぜひストリートダンス同好会に入っちゃってください☆★

文芸、E. S. S.、物理研究、化学研究、演劇、新聞、放送、映画研究、漫画研究、園芸 未更新

運動部

水泳

・高校対校選手権(8月)

於: なみはやドーム

男子 200m バタフライ 4位入賞

女子 200m 平泳ぎ 7位入賞

・新人大会(9月) 於: 大阪ブルー

女子 100m平泳ぎ 8位入賞

現在はシーズンオフのため、陸上での筋力トレーニング、体力づくりに励んでいます。

柔道

天高戦(7月3日)

点取り戦 3-1 勝ち

抜き勝負 大将戦で負け

高校総体 個人(8月11日)

-73キロ級 竹中、村山

竹中 一回戦敗退

村山 三回戦敗退

高校総体 団体(8月12日)

4名で出場

一回戦 2-3 敗退

大阪市北地区大会(11月6日)

団体 一回戦 2-2 内容負け

個人 坂口 一回戦敗退

竹中 一回戦敗退

村山 3位入賞

新人戦団体(11月20日)

抜き勝負 3名で出場

一回戦敗退

新人戦個人(11月27日)

-66キロ級 坂口、

-73キロ級 竹中、村山

坂口 棄権

竹中 一回戦敗退

村山 三回戦敗退

部員は1年生が1名、2年生2名

(2005年12月13日現在)

活動時間 平日 15:30~17:30

土曜日 13:30~16:00

剣道

私たち北野高校剣道部は2005年12月現在、1年生男子10人・女子2人、2年生男子5人・女子2人の19人で活動しています。今年6月に3年生が引退し、2年生が中心となって活動するようになりました。試合は年に3回ある公式戦、そしてその他練習試合や招待試合等あり、特に由緒ある天高戦に加え今年は大手前戦も復活しそれらで好成績をとることを目標として日々稽古に励んでいます。

夏には福井県武生市で4泊5日の合宿(武生高校・北野高校)があり、みんなの結束がより固くなりました。今年からは、12月末にある清教杯に参加するようになりました。まだ不安なところもありますが、さらに良い成績を残せるように頑張ります。顧問に尾島先生にかりわり石川先生が来られました。

石川先生、先輩方、OBやOGの方々、今後ともご指導よろしく願ひいたします。

大阪総合体育大会

【団体】 男子 1回戦敗退

女子 2回戦敗退

新人大会

【個人】 男子 3回戦敗退

女子 3回戦敗退

公立練成大会

【団体】 男子 準優勝

女子 予選敗退

【個人】 男子 3位

女子 2回戦敗退

合気道

現在では来年次の六稜祭の演武に向けて、基本を固め、鍛錬に励んでいます。中学生説明会の際、演武を2つ発表しました。また11月には阿部醒石大先生にお越しいただいて、稽古をつけていただきました。

硬式野球

練習試合

8月1日VS八幡 ○9-1

○14-1

3日VS花園 ○7-4

○7-2

4日VS池田 ○7-2

5日VS星翔 ●3-4

9日VS阿武野 ●1-9

10日VS桜塚 ○21-8

○10-6

17日VS上宮太子 ●7-17

19日VS北陽 ●2-6

○2-1

21日VS大阪学院 ○2-6

●5-6

24日VS西野田 △8-8

28日VS浪速 ●1-6

●4-10

9月10日VS商大堺 ●1-8

秋季大会

2回戦: 北野○4-2岸和田

3回戦: 北野●5-18大阪桐蔭

三校リーグ戦

VS八尾 ○ VS市岡 ○

優勝: 北野高校

僕たちは毎日放課後や、土日など限られた時間を出来る限り有効に

使って日々練習に励んでいます。監督・OBの方々など大勢の方のご支援・ご声援のおかげで大好きな野球が出来る喜びを感じ、来年の春季大会や夏季大会で一試合でも多く皆様に僕たちの試合を楽しんでいただくことを恩返ししたいと思っています。また、僕たちも一日でも長くこのチームで野球が出来るように一生懸命練習したいと思いますので、これからご指導・ご声援をよろしくお願い致します。

サッカー.....

選手権 1回戦 ×0-4 大塚
1月8日に北野グラウンドで新人戦の1回戦(北淀)があるのでぜひ応援に来てください!!

ラグビー.....

<定期戦>

8月28日 神戸×
10月16日 5-76天王寺×

<秋季大会>

1回戦 12-7 金光大阪○
2回戦 5-38 茨木×
現在部員数は2年生5人、1年生10人、マネージャー3人の計18人です。3年生が引退し、選手が15人となってしまいましたが、15人制での大会出場をするために一人一人が責任を持って毎日練習に励んでいます!

年々人数が減ってきているのはなぜでしょうか?ラグビーは最高の球技なのに!!一緒に北野でラグビーしましょう!!みんな高校から始める子ばかりなので、大丈夫!!たくさんの中入生の入部を心からお待ちしております。マネージャーも大々大歓迎です! 私達と一緒に部員をサポートしていきましょう!!今年はOB会から素晴らしいラグビーボールを寄付していただき、非常に充実した環境となりました。これからも応援よろしくお願い致します。

男子バレーボール.....

僕たち男子バレー部は近畿大会出場を決めました。三年生が引退して、現在、2年生5人、1年生2人、マネージャー1人の計8人です。人数は少ないですが、やる気と根性はどのクラブにもまけません。限られた時間の中、自分たちの力を高められるよう、工夫して練習しています。二年連続近畿大会出場を目標にこれからもがんばりますので応援よろしくお願い致します。

近畿大会

○2-1 川西北陵
●0-2 東山
大阪総体(8月1日)
○2-0 東淀川
●0-2 履正社
大阪府立高大会(予選)
●1-2 桜塚
○2-1 東豊中
●1-2 豊中
大阪新人高校大会
(部別11月13日)
●0-2 河南
●0-2 北陽
●1-2 太成学院
(二部降格)

——男子バレー部先輩より一言——
平成17年度インターハイ大阪予選にて大阪府ベスト16に入り20数年ぶりに近畿大会出場することとなりました。

1回戦 vs川西北陵高校
(兵庫県ベスト16校)
○2-1 (25-23, 26-28, 25-23)
1セット目を辛勝し、2セット目も流れのままマッチポイントまで行きましたが、勝利を焦ったのか逆転されてしまいフルセットとなりました。3セットも一進一退の接戦となりましたが両エースの活躍により無事1回戦を突破することができました。
2回戦 vs東山高校
(京都府準優勝校)
×0-2 (15-25, 19-25)

平均身長170cm前半のチームに対し、相手は高校生のチームとは思えない190cmを越える選手が3人もおり、最初は高さに圧倒されておりましたが、北野ならではの「頭を使うバレー」に切り替えて徐々に追いつけたものの、残念ながら2回戦敗退となりました。

負けはしましたが、このような大舞台で試合ができたことはOBとしまでも誇りに思いますし、この経験はきっと将来自信となってバレーボール以外の分野でも活躍してくれると思います。偶然にも今年バレーボール部は創部60周年を迎え、この節目に本当に素晴らしい前祝をプレゼントして頂きました!

バレーボール部創部
60周年記念式典
平成18年8月12日(土)
千里阪急ホテル
(詳細は後日郵送)

田村 亘(103期)

男子バスケットボール.....

7月24日総体予選一回戦
○86-54 開明
7月25日総体予選二回戦
○64-63 桃山
7月26日総体予選三回戦
○90-66 芥川
8月28日総体予選四回戦
●50-117 東住吉工業
10月16日公立校大会
●69-94 紫島
●59-75 茨木
10月30日公立校大会
●43-60 高槻北
11月5日公立校大会
○80-75 少路
11月6日公立校大会
○90-57 桜塚

男子ハンドボール.....

秋季大会
北ブロック大会
8月8日 準々決勝
○11-10 香里丘
8月9日 準決勝
○15-10 東豊中
決勝
○17-15 淀川工業
中央大会
8月12日 1回戦
○22-8 清風
8月13日 2回戦
●12-22 此花学院

新人大会
北ブロック大会
11月3日 準々決勝
○19-14 刀根山
11月5日 準決勝
○16-14 春日丘
決勝
●17-26 北陽
中央大会
11月13日 1回戦
○17-16 三国丘
11月20日 2回戦
●16-31 上宮

女子ハンドボール.....

秋季インターハイ予選
ブロック大会
●9-11 金蘭会 (7/28)
○17-5 此花総合 (7/29)
○11-4 茨木 (8/4)
●5-14 淀商業 (8/8)
第57回高校新人ブロック大会
○16-6 茨木 (10/10)
○24-12 東豊中 (10/30)
●12-20 金蘭会 (11/3)

男子テニス.....

6月 春季赤坂杯
シングルス ベスト16 32
7～8月 夏季大阪総体
シングルス ベスト64
ダブルス 本戦出場
10～11月 秋季赤坂杯
シングルス ベスト16, 16, 32
ダブルス 本戦出場

男子テニス部は現在2年6人、1年7人の計13人で月曜日から日曜日まで毎日活動しています。本戦出場者もふえて、僕たちは本気で近畿大会出場を狙っています。最後に、これからも男子テニス部をよろしくお願いします。

卓球.....

夏季北摂大会
男子シングルス ベスト8
男子団体

1回戦 ○3-0 英真学園
2回戦 ○3-1 山田
3回戦 ●0-3 北千里

夏季高校選手権

男子シングルス 4回戦
男子ダブルス 2回戦
男子団体
1回戦○3-1 住吉商業
2回戦●0-3 城東工業

山岳.....

第60回大阪高校総体登山部門
男子A隊 1位
大阪高校秋季登山大会

男子A隊 3位

クラブはみんなで仲良く楽しくやっています。今は新しい料理に挑戦中です。

季節を問わず部員を募集中です

ソフトボール.....

2年間休部していたソフトボール部が復活しました！！現在は1年生2人で頑張っている。平日には基礎を中心に練習し、休日には他校へ行って合同練習をしています。

人数は少ないですが、やさしいOGの方々も色々手助けをしてくださいます。

これからは人数をもっと増やして“北野ソフトボール部”をつくっていきこうと思いますので、応援よろしくをお願いします！！

女子バレーボール.....

大阪高校総合体育大会

○2-0 茨木

●0-2 大阪福島女子

大阪府立高校大会(地区リーグ戦)

○2-0 豊島

○2-1 桜塚

●0-2 茨木西

大阪府立高校大会(中央大会)

●1-2 松原

秋季部別

○2-0 寝屋川

○2-0 近大附属

●0-2 泉北

女子バスケットボール.....

メンバーは①年生4人、②年生2人ととても少ないです。なので、練習でも試合でもなにかと大変なことが多いです。けれどそれを補うためにメニューを工夫し、いつもがんばっています。

OBさんやOGさんときどき参加してくれるし、何より熱心な顧問の先生のおかげで、少ないなりに密度の濃い練習ができています。

バドミントン.....

第60回大阪高等学校総合体育大会

〔男子ダブルス2部〕 ベスト8

〔男子シングルス2部〕 5回戦進出

〔女子ダブルス2部〕 4回戦進出

〔女子シングルス2部〕 5回戦進出

秋季豊能地区大会

〔男子ダブルス上級の部〕 3位

〔男子シングルス上級の部〕 3位

〔男子ダブルス初級の部〕 優勝

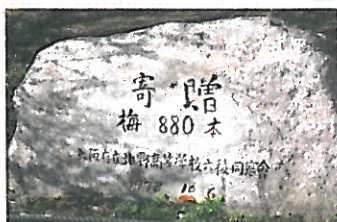
〔女子ダブルス上級の部〕 3位

器械体操、陸上競技、応援、女子テニス

未更新

表紙写真について

母校の創立100周年を記念して、22品種、880本の梅が大阪市に寄贈され、大阪城公園に植えられました。30数年経った今では、約1.7haの広さに90種以上、約1,200本が早春の2ヶ月の間、次々と見事な花を咲かせています。大阪市民の憩いの場・大阪の名所としてすっかり定着しました。珍しい品種も多く全国的にも有名です。六稜同窓会でも、毎年2月末～3月始めに観梅会を開催しています。



表紙写真説明

古今集	浮牡丹	華農玉蝶	緋 の 司	梅林 入口	大阪城	六稜 寄贈 記念碑
白加賀	緑 萼	思いのまま	夫婦梅枝垂			
大阪市民の憩いの場になった、六稜寄贈の大阪城梅林						

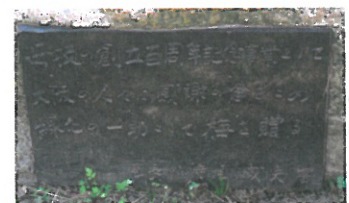
大阪城梅林で一番多い種類は『白加賀』、約180本もあります。

しかし、1本しかない梅も20種ほどあります。

『古今集』『浮牡丹』『夫婦梅枝垂』は1本しかありません。

『緋の司』は、きれいな紅色が特徴。『緑萼』は、枝やガクは常に緑色で、蕾も緑白色。

『思いのまま』は、4色の花をつける梅。『華農玉蝶』は、梅の花の中にさらに蕾が付く、中国から来た梅で、大阪城公園には1本しかなく、



日本にも4本しかない。

大阪城が一番よく見えるところにある「寄贈碑」(左)の裏には、当時の同窓会長である寺尾威夫さんの署名がある。

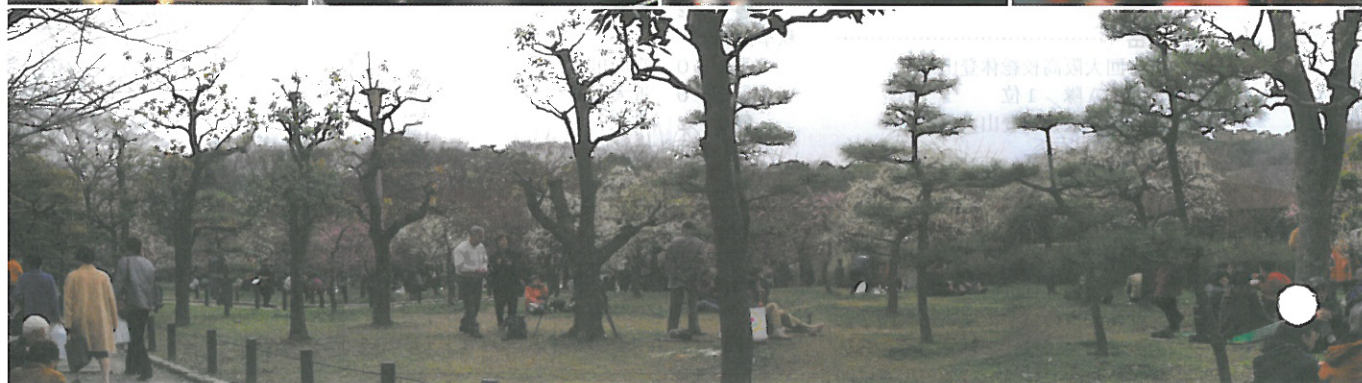
六稜同窓会133周年総会 開催のご案内

日 時 2006年10月29日(日)

場所：北野高校 多目的ホール・六稜会館

時間等詳細は47号にてお知らせします

担当期 87期



六稜会報 No.46

発行日 2006年2月20日
発行者 山本 次郎
編集委員 壽榮松 正 信

発行 六 稜 同 窓 会 <http://www.rikuryo.or.jp/>
〒532-0025 大阪市淀川区新北野2-5-13 府立北野高校内
phone.06-6306-0374 fax.06-6306-1335
e-mail.office@rikuryo.or.jp 郵便振替.00990-4-68025

デザイン 株式会社ひかり工房
印刷 〒556-0004 大阪市浪速区日本橋西2-2-11
phone.06-6641-6011 fax.06-6641-6012

事務局 月・水・金(祝日は休) 10:00～17:00 六稜会館 2 F